何縣何郡
何郡

土地
森林
材積

目的廢止

同

何管理廳計

合計

差引計

何省所管何會計所屬

丙　雜種財産

管理廳名	所在	區分種目	增 數量	增 價格 (円)	減 數量	減 價格 (円)	備考
何管理廳							數量單位ハ各欄ニ明示シタルモノノ外土地ハ坪、建物ハ建坪、左方ハ延坪、船舶ハ隻、其ノ左傍ニ併記セルモノハ噸（總噸數又ハ排水量）又ハ石、材積ハ石、其ノ他ハ孰レモ其ノモノニ相當スル箇數トス
	何縣何市	土地	、	、	、	、	
		宅地	、	、			何省ヨリ引受元何 樹木、、、價格、、、
		耕地			、	、	賣拂
		建物	、	、			
		事務所建	、	、			何省ヨリ引受元何
		雜屋建	、	、			同
	何縣何郡	工作物		、			
		、、、	、	、			何省ヨリ引受元何
		、、、	、	、			同
		土地	、	、	、	、	
		宅地			、	、	何數地トシテ何省ヘ引繼
		耕地	、	、			何省ヨリ引受元何
		雜種地			、	、	賣拂
		、、				、	
		、、			、	、	賣拂
		、、			、	、	同
		、、			、	、	同
	何縣小計						
		土地	、	、	、	、	
		宅地	、	、	、	、	、、、 、、、
		耕地	、	、	、	、	

何廳	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
汽船	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
何管理廳計		、	、	、	、
土地	、	、	、	、	、
宅地	、	、	、	、	、
耕地	、	、	、	、	、
、、				、	、
建物	、	、	、	、	、
工作物		、	、		
船	、	、	、		
、	、	、	、		

何省ヨリ引受元何

、、、、

合計		、	、	、	、
土地	、	、	、	、	、
宅地	、	、	、	、	、
耕地	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
建物	、	、	、	、	
工作物		、	、	、	、
船	、	、	、		
差引計		、	、		
、、	、	、	、		
、、	、	、	、		
、、	、	、	、		
、、	、	、	、		
、、	、	、	、		

內務省所管國有財產取扱規程（大正十一年六月十九日内務省訓令第一〇號）

改正（大正十一年七月十九日訓令第一四號、同年十月二十日同第二一號、十三年四月三十日同第六號、昭和二年八月二十六日同第二〇號、三年四月二十六日同第五號）

第一條　內務省所管ノ國有財產ハ本規程ニ依リ取扱フヘシ但シ別段ノ定アルモノハ其ノ定ニ依ル

第二條　本規程ニ於テ部局長ト稱スルハ內務大臣官房會計課長、土木出張所長、［千住機械工場監督］、土木試驗所長、衞生試驗所長、復興局長官、社會局長官、健康保險署長、職業紹介事務局長、癈兵院長、移民收容所長、神宮大宮司、造神宮副使、警察講習所長、武藏野學院長、榮養研究所長、國立癩療養所長、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ謂フ

第三條　左ニ揭クル事項ハ部局長限リ之ヲ處理スヘシ

一　國有財產ノ管理ニ關スル事項

二　公用財產ノ一時使用許可ニ關スル事項

三　公用財產タル土地ノ用途變更ニシテ大藏大臣ノ定メタルモノニ該當セサルモノ、其ノ異動面積百坪ヲ超エサルモノ、相接續スル兩敷地區域ノ相互變更面積カ其ノ敷地ノ一割ヲ超エサルモノノ用途ヲ變更スル事項

四　國有財產法施行令第一條第一項第二號ノ從物ヲ主物ヨリ分離シ公用財產タル用途ヲ廢止スル事項

五　公共用財產ト爲ス爲土地ノ買入、收用若ハ寄附受納ヲ爲ス事項

六　公共用財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル事項

七　公共用財產ノ用途ヲ變更スル事項

八　公共用財產及神社ノ用ニ供スル公用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ大藏省所管ニ引繼ヲ爲ス事項

九　公共用財產ヲ公用財產ト爲ス爲他省所管ニ管理換ヲ爲ス事項

十　公共用財產若ハ神社ノ用ニ供スル公用財產ヲ營林財產ト爲ス爲農林省所管ニ管理換ヲ爲ス事項

十一　史蹟、名勝、天然紀念物ニ指定セラレタル財産ヲ他省ヨリ引繼ヲ受ケ若ハ所有者ヨリ寄附ヲ受納スル事項

十二　他省所管ノ公用財産ヲ公共用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

十三　農林省所管ノ國有林野ヲ公共用財産ト爲ス爲又ハ神社上地ノ農林省所管國有林野ヲ神社ノ用ニ供スル公用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

十四　神社ノ用ニ供スル爲土地ノ寄附ヲ受納スル事項

十五　神社用地又ハ公共用財産タル土地ノ用途ヲ廢止シ之ヲ神社用地又ハ公共用財産ト爲スノ必要アル民有地ト交換スル事項

十六　公用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財産ト爲ス爲又ハ公共用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公用財産ト爲ス爲大藏省所管ニ引繼ヲ爲サヽル事項

十七　公用財産タル立木竹中庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キモノ及工作物中臺帳價格千圓以下ノモノニ付取毀ノ目的ヲ以テ用途廢止

ヲ爲ス事項

前項第十二號及第十三號ノ場合ニ於テハ各省關係部局長及所轄稅務監督局長ニ、第十四號乃至第十六號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ協議シ第十七號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ事前通知ヲ爲スヘシ

第四條　部局長公用財産ト爲ス爲他省ヨリ國有財産ノ管理換ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ目的財産ニ關スル調書土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ稟請スヘシ

部局長部局相互間ニ於テ國有財産ノ所屬換ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ事由及調書ノ外當該部局間ニ於ケル協議ノ結果ヲ具シ内務大臣ニ稟請スヘシ

第四條ノ二　削除（大正十三年四月内務省訓令第六號）

第五條　部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ交換ヲ爲シ又ハ不動産ノ寄附ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ稟請スヘシ

前項土地ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ國有財産法施行令第十一條ニ依リ

作成シタル調書ヲ添附スヘシ

第五條ノ二　削除（大正十三年四月内務省訓令第六號）

第六條　部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ直ニ内務大臣ニ報告スヘシ

第七條　部局長公用財産ノ用途若ハ營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ、雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ、公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ臺帳ノ抄本（圖面アルモノハ圖面共）ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ

公用財産ノ用途廢止ノ後仍引續キ内務大臣ノ管理ヲ必要ト認ムルモノアルトキハ其ノ意見ヲ具申スヘシ

第八條　部局長國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十一條ノ規定ニ依ル調書ヲ添附スヘシ

第九條　部局長國有財産ノ使用若ハ收益ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案、隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十二條ノ規定ニ依ル調書（土地又ハ建物ニ在リテハ圖面共）ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十條　削除（大正十三年四月内務省訓令第六號）

第十一條　削除（大正十三年四月内務省訓令第六號）

第十二條　部局長國有財産ニ付境界査定ヲ施行シタルトキハ其ノ調書及査定圖面ヲ調製シ之ヲ保存スヘシ

第十三條　國有財産亡失又ハ毀損シタルトキハ部局長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ詳具シ損害額調書ヲ添附シ内務大臣ニ報告スヘシ但シ其ノ損害額ノ輕微ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　部局長ハ國有財産ノ價格ヲ評定セシムル爲常置又ハ臨時ノ價格評定員ヲ命スヘシ

第十五條　臺帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ左ノ區分ニヨリ調製スヘシ

一　土地及國有財産法施行令第一條第四號ニ揭クル權利ノ目的物ニ付テ

ハ縮尺六百分ノ一ノ平面圖但シ場合ニ依リ其ノ縮尺ヲ變更スルコトヲ得

二　建物ニ付テハ百分ノ一ノ平面圖

第十六條　國有財産法施行規則第一號樣式備考二ノ但書ニ依リ工作物及器具機械ノ種目ノ追補ヲ要スルモノアルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十七條　部局長ハ左ノ區分ニ依リ國有財産增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ直接之ヲ會計檢查院ニ送付スヘシ

一　北海道廳ニアリテハ年二回（第一回自四月至九月期間　第二回自十月至三月期間）

二　北海道廳以外ノ部局ニアリテハ年一回（自四月至三月期間）

計算證明規程第七十一條ニ依リ每年度最終ノ國有財産增減計算書ニ添附スヘキ明細書ハ第三號樣式ニ依リ調製スヘシ

第十八條　部局長ハ第一號樣式ニ依リ每會計年度間ニ於ケル國有財産增減報告書二通ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

第十九條　部局長ハ第二號樣式ニ依リ每五年三月三十一日現在ニ依ル國有財産現在額報告書二通ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

附　則

第二十條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第二十一條　國有財産現在額報告書ノ第一回ハ大正十一年四月一日現在ニ依リ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

第二十二條　左ニ掲ケタル訓令及通牒ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ增減異動ニシテ大正十年度中ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

訓　令

明治二十三年十月内務省訓令第三十七號官有地賣貸評價委員設定ノ件

明治二十六年十一月内務省訓令第六百九十四號官有土地水面ノ公私有區別

明治二十七年四月内務省訓令第二百三十八號官有土地水面竝土石竹木等賣買貸借交換讓與ノ際契約書省略ノ件

明治三十三年五月内務省訓令第五百二十五號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十三年六月内務省訓令第二十號、明治三十八年四月内務省訓令第十四號直轄河川改修工事ノタメ官有地ヲ要スル場合取扱方ノ件

明治三十六年十月内務省訓令第六百二十五號耕地整理法第十條ニ依リ國有地ヲ參加土地所有者ニ交付シ又代地ヲ國有ニ編入ノ件

明治三十六年十月内務省訓令第六百六十二號御料地ヲ賣渡シタル場合ニ於ケル地種組替ノ件

明治三十九年五月内務省訓令第三百四十四號官有土地水面竝土石竹木等交換讓與ニシテ無條件ノモノハ受書ヲ徵セサルモ妨ナキ件

明治四十年十二月内務省訓令第千百三十號大藏省所管ノ固定資本ニ屬スル土地處分ノ場合地種組替ニ關スル件

明治四十二年十二月内務省訓令第六百二十號ハ明治四十三年三月内務省訓令第八十號地種目組替取扱ニ關スル件

大正元年十一月内務省訓令第四號官有材産竝其增減異動報告方

大正二年一月内務省訓令第一號國有土地水面等ニ關スル委任事項

大正二年四月内務省訓令第百九十九號國有土地水面ニシテ各地ニ散在スル小畝歩ノモノ賣却ノ件

大正八年十月内務省訓令第六百八十五號官有財産ノ處分委任ノ件

達

明治九年五月内務省達乙第五十九號地所拂下代價算出方

通牒

明治二十三年十月内務書記官通牒地甲第二十三號官有地賣貸評價委員選定方

明治二十五年一月營甲第百十號官有地積算法ノ件

明治二十五年十二月内務書記官通牒庶甲第二百七十九號官有財産管理規則第十三條ニ公共組合ヲモ含ムノ件

明治二十七年十二月甲第三百九十七號風潮除又ハ風致等ノ爲メ樹木獻植ノ件

明治三十年三月土監甲第二百二十號通牒、明治三十八年四月祕甲第十七號通牒直轄河川改修工事ノタメ御料地中潰地ヲ要スル場合取扱方ノ件

明治三十年十月庶甲第百九十五號各官廳ノ所有ニ供スル爲メ府縣郡市町村ヨリ土地ヲ寄附セントスルトキハ各其議會ノ議決書及監督行政廳ノ認可若ハ許可書ヲ添屬シテ出願セシムル件

明治三十一年三月庶務局通牒庶甲第四十號官有地讓與ノ場合ニ於テモ評價セシムヘキ件

明治三十一年九月庶甲第二百十二號森林法第二條ニ該當スル官有地ヲ保安林ニ編入ヲ要スル場合ニ於ケル手續及人民ノ獻植ヲ許可セラレタル場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十一年十二月庶甲第二十六號官有土地森林原野收入金徵收規程中改正ニ就キ產物年期賣拂代金徵收方ノ件

明治三十三年五月庶甲第百三十三號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十四年六月土甲第二十五號河川改修工事ノタメ買收若ハ收用シタル土地貸付方

明治三十七年四月藏甲第十八號土地臺帳規則施行細則改正ノ結果土地所有權登記ニ關スル件

明治三十七年七月藏甲第三十一號無番號ナル官有地登記ノ件

明治三十七年十一月理甲第十號直接公用ヲ廢シタル官有地ヲ戰時經營ノ一事業トシ小學校紀念植林ニ充ツルノ目的ヲ以テ拂下ノ件

明治三十八年九月青甲第四十一號市町村又ハ公立小學校ノ基本財產造成ノ爲メ官有地特別處分ノ件

明治三十九年四月理甲第六號町村有ノ戰時紀念林ニ要スル官有地特別處分ノ件

明治三十九年四月理甲第三十八號小學校生徒樹栽地ニ供スル官有地特別處分ノ件

明治三十九年六月藏甲第三百九號土地臺帳規則施行細則改正ニ付注意方ノ件

明治三十九年八月藏甲第二百五十二號大藏省所管ノ官用地ヲ同省限リ使用許否ノ件

明治三十九年九月地理課通牒理甲第二十二號官有土地水面賣貸讓與交換ノ際評價書ニ掲記スヘキ事項ノ件

明治四十年八月農甲第二十七號國有林野法第三條第一項ニ依リ組換ヲ爲ス場合ノ協議手續ニ關スル件

明治四十年十月香甲第四十六號官有地特別處分規則第三條適用ノ件

明治四十一年五月理甲第四號社寺佛堂合併跡地讓與ニ關スル件

明治四十二年四月理甲第三號民有神社地及寺院敷地ノ上地許否ノ件

明治四十二年六月理甲第九號官有地ノ賣却貸付ノ場合ニ於ケル入札又ハ契約保證金ニ關スル件

明治四十二年七月富乙第六十五號私有地ノ土砂ヲ無願採取ノ件

明治四十二年十二月藏甲第二百三十六號民有地ノ國有トナリ又國有地ノ民有トナリタル場合所轄稅務署ヘ通知ノ件

明治四十二年十二月閣甲第五十四號地種目組替取扱ニ關スル件

明治四十二年十二月會計課通牒會甲第二百號量水標ハ官有財產トシテ取扱ハサル件

大正元年十二月理第三百號國有地ヲ民有地ト爲ス場合ノ取扱方ニ關スル件

大正二年一月元理第三百二十三號ノ內國有土地水面及木竹土石砂利其他產物ニ關スル委任事項改正ニ關スル件

大正二年二月理第六十二號鐵道院ニ於ケル土地取扱官吏

大正三年二月發理第一號御大禮紀念事業經營ノ爲メ官有地拂下ノ場合ニ於テ官有地特別處分規則第一條第一號適用ニ關スル件

大正五年七月閣理第七號鐵道用地ニ關シ官有地ノ一部管理替ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

大正五年八月會計課通牒發會第百三十九號船舶取扱方

大正五年十月秋里第六號官有地貸付料徵收ニ關スル件

大正六年十二月理第三百四十七號未登記國有地公共團體ニ拂下箇所登記ニ關スル件

大正七年九月阪理第十一號官有地特別處分規則第一條第二號ノ適用ニ關スル件

大正八年十二月岡理第五號鐵道用地管理替ノ件

第一號樣式（國有財産增減報告書）

何年度內務省所管

國有財産增減報告書

何（廳名）

備考

一　公用財産、營林財産及雜種財産每ニ別紙ニ調製スルモノトス

二　公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及雜種財産中公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各之ヲ區別シ臺帳ノ總括ニヨリテ記載スルモノトス尙神社ノ用ニ供スルモノハ區分種目欄ニ社格ヲ記載スヘシ

三　數量欄ニハ土地ハ坪、建物ハ右傍ニ建坪左傍ニ延坪、船舶ハ右傍ニ隻左傍ニ噸又ハ石ヲ、立木竹ハ材積ニヨルモノハ木、竹ノ區分ヲ示シ記載スルモノトス

四　同一區分ニ屬スルモノ一種目ニ止マル場合ニ於テハ區分種目欄ニハ其ノ區分ノ記入ヲ省略シ直ニ種目ヲ記載スヘシ（樣式土地ノ場合ノ如シ）

五　增減ノ事由ハ備考欄ニ簡明ニ記入スルモノトス

六　地上權、地役權、借地權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シテ記載シ尙其ノ目的物ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

七　土地ノ價格ニ立木竹ノ價格ヲ合算シタルモノニ付テハ其ノ數量及價

格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

八　借地及營林財産中部分林、保安林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ其ノ數量ヲ備考欄ニ記載スルモノトス

九　公用財産、營林財産及雜種財産毎ニ區分別（營林財産及雜種財産タル土地ニ付テハ種目別）ノ計ヲ附スルモノトス

（公用財産）　　（用紙美濃十三行全罫）

管理廳名	口座名	所在	區分種目	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	備考
何廳（部局名）								
	何々（臺帳口座名）							
		何縣・・何番地	敷地	二〇〇坪	二、〇四〇円〇〇〇			購入樹木二〇本價格二四〇圓
			建物	七〇八〇坪	一二、二〇〇円〇〇〇	一〇一〇坪	五〇〇円〇〇〇	
			事務所建	五〇五〇	七、五〇〇〇〇〇			新築
			倉庫建	一〇二〇	四、〇〇〇〇〇〇			同
			雜屋建	一〇一〇	七〇〇〇〇〇	一〇一〇坪	五〇〇〇〇〇	增ハ新築減ハ取毀
			工作物		九二〇〇〇〇		一〇〇〇〇〇	
			門	二箇	一五〇〇〇〇			增設
			園障	五五間	七七〇〇〇〇			同
			、、、			、、箇	一〇〇〇〇〇	
			船舶			三隻	一、五〇〇〇〇〇	
			帆船			一隻二〇石	一、〇〇〇〇〇〇	取毀
			雜船			二隻	五〇〇〇〇〇	同

何々（臺帳口座名）

何縣・・何番地	敷地			一〇〇坪	一、五〇〇 〇〇〇	用途發止 樹木一〇本 價格一〇〇圓
	建物			三〇.四五坪	四、二五〇 〇〇〇	
	住宅建			二五.四〇	四、〇〇〇 〇〇〇	用途廢止
	雜屋建			五.五.	二五〇 〇〇〇	同
	工作物				二五〇 〇〇〇	
	築庭			一箇	一〇〇 〇〇〇	用途廢止
	池井			一箇	一〇〇 〇〇〇	同
	、、、、			、、	五〇 〇〇〇	同
何廳	計					
	土地	二〇〇坪	二、〇四〇円 〇〇〇	一〇〇坪	一、五〇〇円 〇〇〇	
	建物	七〇.八〇坪	一二、二〇〇円 〇〇〇	四〇.五五坪	四、七五〇円 〇〇〇	
	工作物		九二〇 〇〇〇		三五〇 〇〇〇	
	船舶			三隻	一、五〇〇 〇〇〇	

備考　公用財産、雜種財産ノ記載方ハ本例ニ準ス但營林財産ニ付テハ口座名ヲ林區事業區名トシ雜種財産ニ付テハ口座名ヲ除クモノトス

第二號樣式（國有財産現在額報告書）

何年何月何日現在內務省所管

國有財産現在額報告書

何（廳名）

備考

一　公用財産、營林財産及雜種財産每ニ別紙ニ調製スルモノトス

二　公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及雜種財産中公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各之ヲ區別シ臺帳ノ總括ニヨリテ記載スルモノトス尙神社ノ用ニ供スルモノハ區分種目欄ニ社格ヲ記載スヘシ

三　數量欄ニハ土地ハ坪、建物ハ右傍ニ建坪左傍ニ延坪、船舶ハ右傍ニ隻左傍ニ噸又ハ石ヲ立木竹ハ材積ニヨルモノハ木竹ノ區分ヲ示シ記載スルモノトス

四　同一區分ニ屬スルモノ一種目ニ止ル場合ニ於テハ區分種目欄ニハ其ノ區分ノ記入ヲ省略シ直ニ種目ヲ記載スヘシ（様式土地ノ場合ノ如シ）

五　地上權、地役權、借地權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シテ記載シ尚其ノ目的物ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

六　土地ノ價格ニ立木竹ノ價格ヲ合算シタルモノニ付テハ其ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

七　借地及營林財産中ノ部分林、保安林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ其ノ數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

八　公用財産、營林財産及雜種財産毎ニ區分別（營林財産及雜種財産タル土地ニ付テハ種目別）ノ計ヲ附スルモノトス

（公用財産）　　（用紙美濃十三行全罫）

管理廳名	口座名	所在	區分種目	數量	價格	備考
何廳（部局名）						
	何々（臺帳口座名）					
		何縣、、、何番地	敷地	三〇〇坪	一五、〇〇〇円〇〇〇	樹木五〇〇本 價格一、二〇〇圓
			建物	一三五 二〇五	三四、五五〇〇〇〇	
			事務所建	一〇〇 一五〇	二五、五〇〇〇〇〇	
			倉庫建	二〇 四〇	八、〇〇〇〇〇〇	
			雜屋建	一五 一五	一、〇五〇〇〇〇	
			工作物		二、五五〇〇〇〇	

	門	二箇	三〇〇円	〇〇〇
	圍障	三〇間	四五〇	〇〇〇
	水道	一箇	一、〇〇〇	〇〇〇
	下水	一箇	三〇〇	〇〇〇
	、、、、	、、	五〇〇	〇〇〇
	船舶	一四隻	四二、〇〇〇	〇〇〇
	汽船	一隻 五〇噸	三五、〇〇〇	〇〇〇
	帆船	三隻 二五〇石	五、〇〇〇	〇〇〇
	雜船	一〇隻	二、〇〇〇	〇〇〇
何々(臺帳口座名)				
何縣、、、、何番地	敷地	一五〇坪	三、〇〇〇	〇〇〇

地上權坪數五〇坪 價格五〇〇圓
樹木三〇〇本 價格五〇〇圓

	建物	三五 四五坪	六、〇五〇円	〇〇〇
	住宅建	二五 三五	五、二五〇	〇〇〇
	雜屋建	一〇 一〇	八〇〇	〇〇〇
	工作物		五〇〇	〇〇〇
	門	一箇	五〇	〇〇〇
	池井	一箇	一〇〇	〇〇〇
	築庭	一箇	二五〇	〇〇〇
	、、	、箇	五〇	〇〇〇
	、、	、箇	五〇	〇〇〇
何縣何郡神社用地		二、五〇〇坪		
別格官幣社		一、五〇〇坪		

國幣小社	一、〇〇〇坪			
何廳計				
土地	四五〇坪	一八、〇〇〇	〇〇〇	地上權坪數五〇坪 價格五〇〇圓 樹木八〇〇本 價格一、七〇〇圓
建物	一七〇坪 二五〇	四〇、六〇〇	〇〇〇	
工作物		三、〇五〇	〇〇〇	
船舶	一四隻	四二、〇〇〇	〇〇〇	
神社用地	二、五〇〇坪			

備考　營林財產、雜種財產ノ記載方ハ本例ニ準スルモノトス但營林財產ニ付テハ口座名ヲ林區事業區名トシ雜種財產ニ付テハ口座名ヲ除クモノトス

第三號樣式(國有財產增減計算書附屬明細書)

大正何年度

國有財產增減計算書

附屬明細書

何　(廳名)

摘要	單位稱呼	前年度末現在高		增		減		翌年度越高			備考
		數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	料金	
貸付			円		円		円		円	円	一、料金ハ滿期日ノ如何ニ拘ラス年額ヲ以テ掲クヘシ 一、增減ニ對シテハ其ノ事由ヲ備考ニ附記スヘシ
有料											
公用財產											
何地所在											
土地		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計			0		0		0		0	0	
何々											
何々											
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0		0		0		0	0	
無料											
(前例ニ倣フ)											
準貸付											
(前例ニ倣フ)											

國有財産法施行令中條文ノ適用ニ關スル件（大正十一年六月十九日課第二九八號各地方長官宛、地理課長通牒）

國有財産法施行令第一條第一項第二號ノ從物ハ其ノ主物ト分離シ從物タル關係ヲ廢スル場合ニ於テ國有財産法施行令第二條第二項ノ所謂「用途廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ」トナルヘキ儀ニ有之候條爲御參考及通牒候也

公用財産ノ用途廢止ノ際單ニ事前ノ通知ニ止メ之カ引繼ヲ爲ササルモノノ取扱ニ關スル件（大正十一年六月十九日課第二九九號各地方長官宛、會計課長通牒）

當省所管左記公用財産ハ用途ヲ廢止シタル後モ大藏大臣ニ引繼ヲ爲ササルコトニ協議ヲ遂ケ候條用途廢止ノ必要アル場合ハ内務省所管國有財産取扱規程第七條ニ依リ内務大臣ニ稟請ノ上相當御處理相成度候

記

一　船舶、浮標及浮棧橋

二　建物又ハ工作物ニシテ取毀ノ目的ヲ以テ其用途ヲ廢止スルモノ

三　立木竹、但シ土地ノ用途廢止ニ伴フ場合ヲ除ク

雜種財産ノ處分ニ關スル件（大正十一年八月二十二日發會第三八三號各地方長官宛、會計課長通牒）

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通リ大藏省ヘ照會致置候條處理上參考ノ爲及通牒候

（別紙）

雜種財産ノ處分ニ關スル件

國有財産法ノ施行ニ依リ雜種財産トシテ貴省ヘ引繼ヲ了シ候モノハ單ニ土地目錄面ニ依リタルモノモ可有之ニ付テハ中ニハ現ニ公共用ニ供シアルモノ若ハ現在公共用ニ供セラレサルモ將來道路、河川等ノ改修用地トシテ必要ナルモノ或ハ民有地ニ歸屬ノ結果新ニ堤防護岸等築設ノ必要ヲ生スルモノ等土木事業ニ重大ナル關係ヲ有スル箇所多々可有之ト存候ニ付地方費支辨ニ屬スル道路、河川等ノ附近地ヲ貴省ニ於テ御處分ノ際ハ事前ニ關係地方廳ヘ一應御協議相成樣致度

追而土地臺帳及附屬圖ノ何レニモ脱漏ノ土地ハ稀有ナルモ圖上相當ノ地積ヲ占ムルニ拘ハラス土地臺帳ニ登錄ナキ土地ニシテ偶々發見セラルル事實アリ是等ハ從來整理シ來リタル殘地ナレトモ公共用地、公用地ニ接續シタル是等土地ヲ新ニ貴省ニ於テ雜種財産トシテ御處分ノ際モ同樣ノ手續御取計相煩度候

海濱地ヲ公共用財産トシテ取扱方ノ件

（大正十一年六月二日土第一九四三號 靜岡縣知事照會）

海濱地ハ國有財産法ニ所謂雜種財産トシテ取扱ハレ候哉ニ承知致候ヘ共海濱地ハ或ル特殊ノ場所ノ外大部分漁業用其ノ他船舶ノ繋留物資ノ揚卸漁具漁獲物ノ乾燥等ノ爲日常公衆ノ共用スルトコロニシテ海面ト相俟テ事實上公共用財産ノ一部ヲ形成スルモノト認メラレ候ニ付之ヲ雜種財産ト爲スハ甚タ妥當ナラサルノミナラス本縣ハ從前ヨリ官ニ關スル公有地トシテ取扱來リ候沿革モ有之候ニ付公共用財産トシテ内務省所管ニ据ヘ置カルヽ樣致度及上申候

追テ波打際ニ於テ公共用財産ト雜種財産ノ界線ヲ樹テタリトスルモ砂礫ノ採取又ハ漁業用若ハ海水浴用小屋掛敷等ノ使用出願ヲ處理スル場合所管兩省ニ跨ルトキハ鮮少ナラサル煩累ヲ來シ取締上ニモ統一ヲ缺キ種々ノ不便宜ヲ招來スル虞アルモノト被認候條爲念副申致候

同件

（大正十一年六月九日靜會第三二號ノ内 靜岡縣知事宛、會計課長回答）

本月二日土第一九四三號標記ノ件ニ關シ大藏、内務兩大臣宛上申相成候處財産ノ種別ハ名稱ノ如何ニ不拘各其用途又ハ目的ニ依リ決定セラルヘキモノニ有之候從テ海濱地ニシテ直接公共ノ用ニ供セラルヽモノハ當然公共用財産トシテ取扱相成可然ト存候間一應名古屋稅務監督局ニ御協議相成度候

追テ本件ニ關スル貴官ヨリノ上申書及之ニ對スル本省ヨリノ回答ハ大藏省臨時國有財産整理部長ヘ及移牒置候

公共用途廢止地等ノ取扱ニ關スル件

（大正十一年六月八日地第三〇四八號 岡山縣知事照會）

雜種財産ノ引繼ニ關聯シ左記事項疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御回示相煩度

三　河川溝渠等ノ公共用途ヲ廢止シ國有財産法施行令第八條ニ依リ公共團體ニ讓與スヘキモノハ同第二條第二項用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノニ該當スルモノトシ大藏省ニ交渉ヲ要セス處理シ可然モノナリヤ

四　濱地、附寄洲、池沼、墓地、塚敷、公園等ハ公共用地ニ屬シ大藏省ニ引繼クヘキモノニアラスト存セラルヽモ國有財産法施行規則別表ニ雜種財産ナルカ如ク種目ノ記載アルヲ以テ引繼方要求アリ如何處理スヘキヤ

同件

（大正十一年六月二十六日岡會第一八號ノ内 岡山縣知事宛、會計課長回答）

本年六月八日地第三〇四八號問合標記ノ件ハ左記ノ通御承知相成度

三　用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノニ該當セス雜種財産トシテ大藏省ニ引繼クヘキモノトス

四　名稱ノ如何ニ拘ラス從來公共ノ用ニ供シアルモノハ公共用財産トシテ内務省ノ所管ニ屬スルモ

ノトス

公用財産取扱ニ關スル疑義ノ件（大正十一年七月四日神第四一一號 神戸土木出張所長照會）

標記取扱方ニ關スル左記疑問ノ諸點至急御回示相煩度此段照會候也

記

一 建物工作物ノ移築、改築、模様替ニヨリ生シタル剩餘古材ハ之ヲ物品ニ組替フルコトヲ得ルヤ
二 前號剩餘古材ノ内不用ノ分ハ物品ニ組替ヲ爲サス其儘所長限リ賣拂ヲ爲スコトヲ得ルヤ
三 建物、工作物ニシテ將來同一目的ノ爲メニ利用ノ見込ヲ以テ一時取毀タントスルハ用途廢止トシテ稟請ヲ要スルヤ
四 建物及工作物ノ取毀及其不用古材ノ賣拂ハ用途廢止トシテ稟請ヲ要スルヤ
五 公用財産ノ從物ヲ除斥シ又ハ之ヲ物品ニ取替フルハ所長限リ專行スルコトヲ得ルヤ
六 雜建物、工作物ハ臨機廢止變更ヲ要ス其都度稟請ヲ要スルヤ
七 價格評定員ハ一名ニテ可ナルヤ
八 一式ヲ以テ單位トシタル物ニ對シ其後ノ增減ハ價格ノミノ更正ニテ足ルヤ
九 公用財産ヨリ生シタル不用古材及從物ノ賣拂代金ハ國有財産整理資金ノ歳入トスヘキヤ

同件（大正十一年七月二十五日出第一一一號 神戸土木出張所長宛、會計課長回答）

七月四日附神第四一一號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處左記ノ通リニ候

記

一 物品ニ組替整理スヘキ義ト存候
二 物品トシテ所長限リ處分スヘキ義ト存候
三 御見込ノ通リ
四 前段ハ御見込ノ通リ後段ハ國有財産ノ用途廢止ニ非サルカ故ニ物品トシテ所長限リ處分セラレ可然ト存候
五 内務省國有財産取扱規程第七條ノ二ニ依リ御取扱相成度候
六 公用廢止ニ非サルモノハ稟申スルニ及ハス候
七 一名ニテモ差支無之ト存候
八 御見込ノ通リ
九 不用古材ハ勿論國有財産法施行令第一條第一項第二號ノ從物ニシテ其主物ト分離シ從物タル關係ヲ廢シタル場合ハ同令第二條第二項ノ用途廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノニ該當スルモノト雖賣拂代金ハ物品拂下代トシテ徵收スヘキモノトス

官ニ屬スル公有水面埋立並使用ニ關スル件

（明治二十三年十月二十日内務省訓令第三六號）
改正（明治二十六年訓令第二號、三十一年同第五號、四十年同第一四號）

第一條
第二條
第三條
第四條
第五條
第六條
（公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅）

第七條　舊慣ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ外公有ノ水面又ハ河川敷地ヲ其儘使用センコトヲ出願スルモノアルトキハ前條々ノ例ニ準シ命令書ヲ下附シテ之ヲ免許ス可シ但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ料金ヲ國庫ニ納メシム可シ

第八條　（公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅）

第九條　水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下附スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障碍ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十條　何レノ場合ニ於テモ使用料額ハ五ケ年ヲ期シテ定ムヘシ

第十一條
第十二條
（公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅）

第十三條　公有水面ノ（埋立）使用及河川敷地ノ使用ハ特ニ其ノ處分ヲ委任シタルモノ及第九條ヲ除クノ外總テ意見ヲ具シ地圖ヲ添ヘ本大臣ニ稟議スヘシ但シ公有水面ニシテ使用ノ慣行アルモノニ限リ地方ノ狀況ニ依リ特ニ其ノ處分ヲ委任スルコトアルヘシ

其ノ本大臣ノ指令ヲ得テ下附シタル命令書、設計書、圖面ハ又本大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス

漁業免許ト水面使用許可トノ關係ニ付取扱方ノ件

（明治四十四年三月二十日水第三一三〇號各地方長官宛、土木、水産兩局長通牒）

改正漁業法實施ノ後漁業ノ免許ト官ニ屬スル公有水面使用ノ許可トノ關係ニ付テハ左ノ通御取扱相成度依命此段及通牒候也

追テ河川法ヲ施行シタル河川又ハ河川法ヲ準用シタル河川ニ於テ漁業ノ爲メ工作物ヲ施設シ又ハ占用ヲ爲ス等ノ場合ニハ各其ノ法令ニ依リ許可ヲ受ケシムヘキハ勿論ナルモ許可ニ依リテ生スル權利義務ハ漁業法第十一條ノ規定ニ依リ當然漁業權ノ處分ニ隨伴シ其ノ移轉ニ付テハ別ニ許可ヲ

要セサルモノトス

一　漁業法施行規則第十二條第七號第十三條第一號又ハ第二號（工作物ノ施設其ノ他ノ行爲ニ依リ水面ヲ限界スルモノ）ニ該當スル場合ハ其ノ水面ノ使用ニ付テハ明治二十三年內務省訓令第三十六號第七條ノ規定ニ依ルモノトス但シ此場合ニ於ケル使用料ハ其ノ事實ト地方ノ狀況トニ依リテハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

二　前號以外ニ該當スル場合ニ於テモ漁業ノ爲メ工作物ヲ施設スルモノヽ如キハ其ノ工作物等ノ施設ノ區域ニ付キ亦前號ニ同シ

公有水面使用ノ免許ニ關スル事項ハ漁業ノ免許又ハ許可ノ願書ニ之ヲ併記セシメ同時ニ處理スルモ支障ナシ

三　前二號以外ニ該當スル場合ニ於テハ水面使用ノ規定ニ依ルヲ要セサルモノトス

四　慣行アル場合ニ於テ其ノ慣行ニ從ヒ漁業ヲ爲スモノハ水面使用ノ規定ニ依ルヲ要セサルモノトス

五　水面使用ノ期間ハ漁業ノ免許期間ト同一ナルコトヲ要ス

六　水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業法第十一條ノ規定ニ依リ漁業權ノ處分ニ從ヒ當然相續讓渡又ハ抵當權ノ目的トナルヘキモノナルコト勿論ナルモ命令書ノ變更ヲ要スル場合ニハ更ニ其ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

七　漁業ノ爲メニスル公有水面使用ニ關シ明治二十三年內務省訓令第三十六號第一條ノ規定ニ依リ關係市町村會ノ意見ヲ聞クハ其ノ使用ニ付テノミ之ヲ聞クモノニシテ漁業ノ免許ニ付テハ其ノ意見ヲ徵スルニ及ハサルモノトス

八　公有水面ノ使用ト漁業トハ免許取消其ノ他處分上同一ノ取扱ヲ爲シ兩者支離スルカ如キコトナキ樣注意ヲ要ス

漁業免許ト水面ノ占用使用等ニ關スル訴願取扱方ノ件（明治三十七年十月十九日內務省省議決定）

漁業法ニ依ル漁業免許ト之ニ伴フ水面ノ占用使用等ニ關スル取扱上ニ付テ曾テハ農商務、內務兩省ノ間ニ篤ト協議ヲ盡シ內務省ハ府縣知事ニ對シ兩者ノ關係ニ付キ詳細ノ手續ヲ定メ通牒ヲ發シタリ故ニ漁業行爲ニシテ水面ニ工作物ヲ設置スルモノヽ如キハ一面ニ於テ漁業法ニ依リ漁業ノ免許ヲ申請スルト同時ニ又一面ニ於テハ河川法又ハ水面使用ノ規定ニ依リ許可ノ申請ヲ爲サヽルヘカラス此申請ニ對スル府縣知事ノ處分ニシテ單ニ漁業法ニ關スル事項ナラハ農商務大臣ニ訴願シ河川法又ハ水面使用ニ關スル事項ナラハ內務大臣ニ訴願スヘキ筈ニテ兩者ノ區別截然トシテ明カナレトモ訴願者ノ提出スル書面ニ至リテハ之レ等ノ區別ヲ混同スルモノナキニアラサルヘシ故ニ農商務省ニ受理セシ訴願ノ事項中ニ內務省ノ主管ニ屬スルモノアルカ又內務省ニ受理セシ訴願ノ事項中ニ農商務省ノ主管ニ屬スル事項アル等ノ場合ニ於テハ其裁決ハ何レノ名ヲ以テスルヲ問ハス兩省合議ノ上處分

スル方然ルヘシ

訴願ノ裁決ヲ爲スニ當リ實地ノ調査ヲ要スルモノヲ大別スレハ漁業上ノ關係ト水利土木ノ關係トノ二種ナルヘシ而シテ此ノ二種ノ內水利土木ニ關スル事項ハ當然內務省ニ於テ調査スヘキモノナルカ故ニ內務省ハ相當ノ機關ニ依リ之カ調査ヲ爲スモノトス

但シ本文調査ノ事項及其手續等ハ訴願ノ實質ニ付其都度兩省主務局長ノ間ニ交渉ヲ遂ケ處理スルモノトス

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷處分方ノ件（明治二十四年五月二十二日 內務省訓令第四六二號）

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷ノ使用ハ自今其ノ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ請ハシムヘシ

前項堤塘道路竝木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其ノ他ノ收益ハ其ノ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ

費用ノ主擔定マラサルカ又年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路竝木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其ノ收益ニ屬スルモノハ府縣廳ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ配付スヘシ

地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理ニ歸セシムヘシ

公有水面使用權移轉ニ關スル件（昭和三年十月十五日三土第四七四九號 鹿兒島縣知事照會）

會社解散後清算人ヨリ公有水面使用權讓渡ノ儀願出タルトキハ命令書ニ解散後ハ效力ヲ失フヘキ旨ノ規定ナキ場合ニ在リテハ許可シ可然モノト認メラレ候得共疑義相生シ候ニ付至急何分ノ儀御回示相成度

同件（昭和四年一月十九日鹿土第一號 土木局長回答）

客年十月十五日三土第四七四九號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件許可ニ依リテ得タル使用權ナル場合ニ於テハ御見込ノ通ト存候

要塞地帶法（明治三十二年七月十五日法律第一〇五號）

改正（大正四年六月法律第一七號）

第一章　總則

第一條　要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ

第二條　要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以內ニ於テ之ヲ定ム

第三條　要塞地帶ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ竝之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示

ヲ爲スコトヲ要ス

第一區　基線ヨリ測リ二百五十間以內及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區　基線ヨリ測リ七百五十間以內

第三區　基線ヨリ測リ二千二百五十間以內

第四條　要塞司令官鎭守府司令長官要港部司令官及築城部本部長ハ要塞地帶ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帶內及第七條第二項ノ區域內何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地內ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條　陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域內ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎭守府司令長官要港部司令官之ヲ行フ

第六條　此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二

條第三條及第七條第二項ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以内ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章　禁止及制限

第七條　何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帶内水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、模寫、錄取シ又ハ要塞地帶内ヲ航空スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帶外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

航空ノ許否ニ關シテハ要塞司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　要塞司令官ハ要塞地帶内ニ入リ兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條　要塞地帶ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　第一區内ニ於テ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一　不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫

二　窖室及固定竈爐

三　不燃質物ヲ以テ築造セル高サ二尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十一條　第一區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一　埋葬地

二　水車及風車

三　井

四　容易ニ他ニ移動スヘカラサル器械器具ヲ備フル家屋

五　生垣及木造ノ園牆

六　第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫

第十二條　第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一　不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫

二　埋葬地

三　不燃質物ヲ以テ築造セル高サ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十三條　第一區第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屋内ト屋外トヲ問ハス累積スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一　第一區内ニ於テハ高サ五尺、第二區内ニ於テハ高サ八尺以上ニ累積スル不燃質物及石炭類

二　第一區内ニ於テハ高サ一丈三尺、第二區内ニ於テハ高サ一丈七尺以上ニ累積スル薪炭及竹木材

第十四條　第一區第二區内ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築増築スルコトヲ得ス

第十五條　各區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一　地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工即チ堆土、開鑿等

二　溝渠、鹽田、排水及灌水

三　公園、育樹場、竹木林、菓園及桑茶畑

四　耕作地

第十六條　各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第十七條　本章ノ禁止制限ニ違背シ新設改築増築變更シタル家屋倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等ハ違背者ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ルモノハ之ヲ復舊セシメ期限内ニ除去復舊セサルトキ若ハ其ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ方法宜シキヲ得サルトキハ官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ政府ハ國稅ニ次キ先取權ヲ有ス

本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸軍大臣之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官之ヲ爲スヘシ

第十八條　地帶ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示又ハ通達ヲ受タル日ヨリ三十日以內ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十九條　陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域內ニ限リ特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ

第二十條　本章ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニシテ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合若ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ揭クル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ第十九條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第二十一條　陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條第九條第十一條乃至第十五條ニ揭クル事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認第十六條ニ揭クル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章　罰則

第二十二條　第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ十一日以上ノ拘留又ハ五十圓以下ノ罰金若ハ二圓以上ノ科料ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

第二十三條　第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條　第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違犯シタル者ハ四十圓以下ノ罰金又ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第二十五條　第十四條ニ違反シタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

第二十六條　要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ二月以下ノ懲役

若ハ十一日以上ノ拘留ニ處シ又ハ五十圓以下ノ罰金若ハ五圓以上ノ科料ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

第四章　雜則

第二十七條　要塞地帶創設告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、增築中ニ係ルモノハ此ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス

第二十八條　要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石、標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲ニ要スル敷地ノ買收及使用ニ關シテハ明治二十三年法律第二十三號陸地測量標條例ノ規定ヲ準用ス

第二十九條　此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第三十條　此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨クルコトナシ

第三十一條　明治三十一年勅令第百七十六號ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル箇所ニ限リ其ノ效力ヲ失フ

要塞地帶法施行規則（明治三十三年六月十六日陸軍省令第一四號）

改正（明治三十四年十月第一五號、大正三年五月第七號、四年七月第九號、八年八月第二八號）

第一條　要塞地帶法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬、煉瓦、石、土及之ニ準スヘキモノヲ謂ヒ道路橋梁ト稱スルハ國道縣道及道幅三間以上ノ公共道路及此等ノ路線ニ架設スル橋梁ヲ謂フ

第二條　左ニ掲クル事項ハ許可ヲ受クルコトヲ要セス

一　港灣ニ出入スル艦船ノ航行ニ必要ナル錘測

二　土地ノ丈量但シ地目地類ノ變換、土地分合、境界査定、家屋倉庫ノ新設變更竝本項第四號乃至第十一號ニ掲クル作業ニ要スルモノニ限ル

三　檢證ノ爲相當官憲ノ行フ測量、模寫、撮影、錄取

四　長サ百間ヲ超エサル生垣及木造ノ圍牆ノ新設變更

五　不燃質物ヨリ成ラサル建坪五十坪以下ノ家屋倉庫ノ新設變更但シ火藥庫ノ近傍ニ在リテハ其ノ外圍ヨリ外方五十間以外ノ場合ニ限ル

六　面積三百坪以下ニシテ第一區ニ在リテハ高低二尺、第二區、第三區ニ在リテハ高低三尺ヲ超エサル堆土、開鑿等

七　宅地內ニ於テスル築山、泉水等ノ新設變更

八　不可抗力ニ由リ變更シタル土地物件ヲ原狀ニ復スル作業

九　深、幅各六尺ヲ超エサル溝渠及排水、灌水ノ新設變更

十　竹木林ノ伐採

十一　面積五百坪ヲ超エサル育樹場、菓園、桑茶畑、鹽田及耕作地ノ新設變更

第三條　要塞地帶法第十條及第十六條ノ禁止ヲ解除シタル場合ニ於テハ尙要塞司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　要塞司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記シ其ノ作業地（航空ノ場合ニ在リテハ其ノ發著場）ヲ管轄スル市町村長（朝鮮ニ在リテハ警察署長、同分署長、臺灣ニ在リテハ廳長又ハ支廳長以下同シ）ノ奥書ヲ得テ當該要塞司令官ニ願出ツヘシ

一　要塞地帶法第七條ニ掲クルモノニ在リテハ其ノ目的、區域及期限但シ航空ノ場合ニ在リテハ使用スヘキ航空機ノ種類及型式共

二　要塞地帶法第九條ニ掲クルモノニ在リテハ漁獵採藻ノ區域及期限、艦船繫泊ノ位置及期限、土砂掘鑿ノ區域、方法及期限

三　要塞地帶法第十條（解除シタル事項ニ限ル）乃至第十二條竝第十五條及第十六條（解除シタル事項ニ限ル）ニ掲クルモノニ在リテハ其目的、設計、位置及落成期限但シ同法第十一條第四號ニ掲クルモノニ在リテハ其器械器具設備ノ設計及其位置共

四　要塞地帶法第十三條ニ掲クルモノニ在リテハ累積物ノ種類、累積ノ目的、位置、高サ竝期間

要塞地帶法第十四條ニ依リ許可ヲ得ムトスルモノハ前項ニ準ス

第五條　陸軍大臣ノ許可ヲ得ムトスル者ハ工事ノ種類、設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該要塞司令官ヲ經由シテ陸軍大臣ニ願出ツヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ地方長官ノ證明ヲ要セス

第六條　府、縣、〔郡〕、市、町、村、水利組合其他公共團體竝社團法人ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ願出ツヘシ

府、縣、〔郡〕、市、町、村、水利組合其他公共團體ヨリ出願スル場合又ハ要塞地帶法第七條中撮影、模寫、錄取ヲ出願スル場合若ハ本則第七條ノ場合ニハ第四條ノ奥書ヲ要セス

第七條　許可ヲ受クヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノハ先ツ其許可ヲ受ケ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條　前諸條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス

許可證ハ作業ヲ實施スル者必ス携帶シ何時ニテモ憲兵、衞戍服務ノ軍人、當該要塞司令部（對島ニ在リテハ警備隊司令部）職員及警察官吏ノ閲覽ニ供スヘシ

第十條　許可證ヲ失ヒタルトキハ速ニ其ノ再下附ヲ願出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ最寄警察官署又ハ憲兵隊（分隊、分遣所、派遣所、出張所ヲ含ム）ニ其旨ヲ屆出テ作業ヲ繼續スルコトヲ得

第十一條　許可ヲ受ケタル作業者ハ作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ揭クヘシ但シ要塞地帶法第七條及第九條ニ揭クルモノニ在リテハ此限ニ在ラス

第十二條　許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其旨ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長ニ屆出ツヘシ市町村長ハ之ヲ取纏メ每月末日ヲ以テ當該要塞司令官ニ報告スヘシ

第十三條　許可證ヲ所持スヘキ者ニシテ當該官ノ閲覽ヲ拒ミタル者ハ二圓以上十圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十四條　本則ハ陸軍防禦營造物ノ地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ヲ除キ總テノ要塞地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ニ關シテ之ヲ適用ス

第十五條　本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

要塞地帶法施行規則（明治三十三年六月十六日海軍省令第一六號）

改正（明治三十四年十月第一〇號、十二月第一四號、大正三年五月第六號、四年七月第七號、八年八月第二〇號）

第一條　要塞地帶法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬、煉瓦、石、土及之ニ準スヘキモノヲ謂ヒ道路ト稱スルハ國道、縣道及道幅三間以上ノ公共道路ヲ謂ヒ橋梁ト稱スルハ道路ヲ交續スル爲メ架設スルモノヲ謂フ

第二條　左ニ揭クル事項ハ要塞地帶法ニ依リ許可ヲ受クルヲ要セス但シ海軍大臣ノ告示スル區域及事項ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

一　港灣ニ出入スル艦船ノ航行ニ必要ナル錘測

二　土地ノ丈量但シ地目地類ノ變換、土地分合、境界査定、家屋倉庫ノ新設變更竝本項第四號乃至第十一號ニ揭クル作業ニ要スルモノニ限ル

三　檢證ノ爲相當官憲ノ行フ測量、模寫、撮影、錄取

四　長サ百間ヲ超エサル生垣及木造ノ圍牆ノ新設變更

五　不燃質物ヨリ成ラサル建坪五十坪以下ノ家屋倉庫ノ新設變更但シ火藥庫ノ近傍ニ在リテハ其ノ外圍ヨリ外方五十間以外ノ場合ニ限ル

六　面積三百坪以下ニシテ第一區ニ在リテハ高低二尺、第二區第三區ニ在リテハ高低三尺ヲ超エサル堆土、開鑿等

七　宅地內ニ於テスル築山泉水等ノ新設變更

八　不可抗力ニ由リ變更シタル土地物件ヲ原狀ニ復スル作業

九　深サ幅各六尺ヲ超エサル溝渠、排水灌水ノ新設變更

十　竹木林ノ伐採

十一　面積五百坪ヲ超エサル育樹場、菓園、桑茶畑、鹽田及耕作地ノ新設變更

第三條　鎭守府司令長官若ハ要港部司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記シ其ノ作業地（航空ノ場合ニ在リテハ其ノ發著場）ヲ管轄スル市町村長（朝鮮ニ在リテハ警察署長、同分署長、臺灣ニ在リテハ廳長又ハ支廳長以下同シ）ノ奥書ヲ得テ當該鎭守府司令長官若ハ要港部司令官ニ願出ヘシ

一　要塞地帶法第七條ニ掲クルモノハ其ノ目的、區域及期限但シ航空ノ場合ニ在リテハ使用スヘキ航空機ノ種類及型式共

二　同法第九條ニ掲クルモノハ漁獵、採藻ノ區域及期限、艦船繋泊ノ位置及期限、土砂掘鑿ノ區域、方法及期限

三　同法第十一條第十二條第十四條及第十五條ニ掲クルモノハ其ノ目的、設計、位置及落成期限但シ同法第十一條第四號ニ掲クルモノハ其ノ器械器具ノ位置及設計ヲモ詳記スルヲ要ス

四　同法第十三條ニ掲クルモノハ累積物ノ種類、累積ノ目的、位置、高サ竝期間

第四條　要塞地帶法第十條、第十六條ノ事項ノ禁止ヲ解除シタル場合ニハ仍ホ本則第三條第五條ノ規定ヲ適用シ鎭守府司令長官若ハ要港部司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條　海軍大臣ノ許可ヲ得ントスルモノハ工事ノ種類、設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該鎭守府司令長官若ハ要港部司令官ヲ經由シテ海軍大臣ニ願出ヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ地方長官ノ證明ヲ要セス

第六條　府、縣、〔郡〕、市、町、村、水利組合其ノ他公共團體竝社團法人ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ願出ヘシ

前項ノ場合又ハ要塞地帶法第七條中撮影、模寫、錄取ヲ出願スル場合若ハ本則第七條ノ場合ニハ本則第三條ノ奥書ヲ要セス

第七條　許可ヲ受クヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノハ先ツ其ノ許可ヲ受ケ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條　前諸條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス

許可證ハ作業ヲ實施スル者必ス之ヲ携帶シ其ノ地點ヲ警衞スル軍人軍屬憲兵及警察官吏ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ閲覽ニ供スヘシ

第十條　許可證ヲ失ヒタルトキハ速ニ其ノ再交付ヲ願出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ其ノ旨ヲ最寄警察官吏又ハ憲兵ニ屆出テ其ノ承認ヲ得テ作業ヲ繼續スルコトヲ得

第十一條　許可ヲ受ケタル作業者ハ作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掲クヘシ但シ要塞地帶法第七條及第九條ニ掲クルモノハ此ノ限ニアラス

第十二條　許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長ニ屆出ヘシ市町村長ハ之ヲ取纒メ毎月末日ヲ以テ當該鎭守府司令長官若ハ要港部司令官ニ報告スヘシ

第十三條　許可證ヲ所持スヘキモノニシテ當該官吏ノ閲覽ヲ拒ミタルモノハ二圓以上十圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十四條　本則ハ海軍防禦營造物ノ地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ニノミ之ヲ適用ス

第十五條　本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

防禦海面令（明治三十七年一月二十三日勅令第一一號）

第一條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ區域ヲ限リテ本令ニ依ル防禦海面ヲ指定スルコトヲ得其ノ指定及之カ解除ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第二條　緊急ノ必要アルトキハ鎭守府司令長官、要港部司令官ニ於テ前條ノ指定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ指定及之カ解除ハ鎭守府司令長官、要港部司令官之ヲ告示ス

第三條　防禦海面ニ於テハ日沒ヨリ日出迄陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第四條　防禦海面ニ屬スル軍港及要港ノ區域内ニ於テハ陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第五條　防禦海面ヲ出入若ハ通航シ又ハ之ニ碇泊スル船舶ハ其ノ一切ノ行動ニ付所管鎭守府司令長官、要港部司令官ノ指示ニ遵フヘシ

第六條　鎭守府司令長官、要港部司令官ハ必要ト認ムルトキハ防禦海面ニ於ケル漁獵、採藻其ノ他軍事上障害トナルヘキ行爲ヲ禁止シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條　鎭守府司令長官、要港部司令官ハ適當ト認メタル船舶ニ對シ特ニ本令ノ禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解クコトヲ得

第八條　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル船舶ニ對シテハ航路ヲ指定シテ防禦海面外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ遵ハサルモノニ對シテハ必要ニ應シ兵力ヲ用フルコトヲ得

第九條　第三條乃至第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執レル者ヲ一年以下ノ【重禁錮】又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第六條ノ禁止又ハ制限ニ違背シタル者ハ六月以下ノ【重禁錮】又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍港要港ニ關スル件（明治二十三年一月十六日法律第二號）

軍港要港境域内ニ所在ノ人民及出入スル船舶ハ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ從フヘシ但海軍大臣ニ於テ軍港要港規則ヲ定ムルトキハ内務大臣農商務大臣ト協議スヘシ

軍港要港規則（明治三十三年四月三十日海軍省令第七號）

改正（明治三十三年十一月第二四號、三十四年四月第四號、十月第一一號、三十六年十二月第六號、三十八年十二月第九號、四十一年十二月第一四號、四十二年十月第二號、四十三年十二月第一三號、四十四年一月第一號、大正元年十月第三號、十二月第五號、二年十二月第一四號、三年九月第一〇號、十四年六月第五號、五年三月第二號、十三二月第一三號、六年四月第二號、七年二月第二號、八年一月第一號、五月第一〇號、十年四月第五號、六月第一三號、十一年十二月第二六號、十二年三月第三號、六月第一二號、十五年二月第二號、昭和二年六月第一〇號）

第一條　軍港要港ノ水域ハ各之ヲ三區ニ分チ別圖點一線以内ヲ第一區ト稱シ點二線以内ヲ第二區ト稱シ第一區第二區以外ヲ總テ第三區ト稱ス

第二條　軍港要港ニ入ラントスル艦船ハ軍港要港水域外約三海里ノ所ヨリ投錨若ハ繫止スル地點マテ萬國船舶信號ニ依リ各自ノ艦船名ヲ表示スヘシ但シ鎭守府司令長官其ノ必要ナシト認メ其ノ旨豫メ通知シタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條　軍港要港水域及其ノ以外約三海里以内ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ特別ノ規定アルモノノ外其ノ國籍ヲ表明スル旗章ヲ掲揚スヘシ

第四條　軍港要港水域及其ノ以外約三海里以内ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ日沒ヨリ日出マテ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ

第五條　内外各地ヨリ入港スル艦船ニシテ海港檢疫法第四條第一項ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ檢疫又ハ消毒ヲ終ラサルモノハ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ第一區第二區ニ入ルコトヲ許サス又第一區第二區ニ於テ傳染病患者ヲ發シタル艦船ハ檢疫信號ヲ掲ケテ鎭守府司令長官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第六條　第三區ニ於テハ航路ノ妨トナラサル限ハ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得但シ爆發物若ハ燃燒

シ易キ物件ヲ積載スル艦船ハ港務部長特ニ其ノ錨地ヲ指示スルコトアルヘシ

第七條　第一區第二區ニハ海軍所屬艦船ノ外ハ鎮守府司令長官ノ許可ナクシテ入ルコトヲ許サス
舞鶴要港ニ於テ第三區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ニハ前項ノ規定ヲ適用セス
但シ新舞鶴錨地ニ出入スル船舶ハ要港部司令官ノ指定スル航路ニ依ルヲ要ス
排水噸數十五噸以上ノ海軍所屬艦船第一區ニ入ラントスルトキハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ受クヘシ
海軍兵學校前面即チ別圖點三線以内ニ於テハ呉鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ海軍所屬艦船ノ外艦船ヲ碇繫スルコトヲ禁ス又海軍兵學校用地内ニ於テ赤旗ヲ掲ケタルトキハ總テ艦船ノ該點三線以内ヲ通航スルコトヲ禁ス

第八條　第一區第二區ニ於テハ艦船ノ進退ハ排水噸數十五噸以下ノ船舟ヲ除クノ外總テ港務部長ノ指示ニ從フヘシ但シ天災其ノ他不時ノ事故ニ依リ其ノ指示ヲ待ツ能ハサル場合ニハ此ノ限ニアラス
舞鶴要港ニ於テハ第三區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ハ第二區ニ在ルトキト雖港務部長ノ指示ヲ待ツヲ要セス

第九條　外國ノ艦船ハ特別ノ事由アルニアラサレハ夜中ニ軍港要港ノ水域ニ入ルコトヲ許サス

第十條　鎮守府司令長官ハ必要ナル場合ニハ在港艦船ニ錨地ノ變換若ハ退去ヲ命スルコトヲ得

第十一條　鎮守府司令長官ハ第一區ニ入リ又ハ入ラントスル艦船ノ積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトヲ得

第十二條　凡テ艦船ハ鎮守府司令長官ノ特許アルモノノ外火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ入ルコトヲ禁ス汽罐點火中ノ小蒸汽船其ノ他火氣ヲ有スル一切ノ船舟亦同シ

第十三條　軍港要港境域内ニ於テハ禮砲號砲及鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タルモノノ外火器若ハ爆發物ノ發射發火ヲ禁ス但シ公私ノ家屋建造物ヲ距ルコト七十五間以内ニ於テハ禮砲號砲ト雖特ニ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切發射發火ヲ爲スコトヲ許サス

第十四條　第一區第二區（呉軍港ニ於テハ第一區第二區及海軍兵學校前面即チ別圖點三線以内、鎮海要港ニ於テハ第一區第二區及別圖點三線以内）ニ於テハ鎮守府司令長官ノ特許ヲ得スシテ漁獵採藻ヲ爲シ又ハ漂流物若ハ沈沒物ヲ拾得スルコトヲ禁ス
航路ノ妨害トナリ又ハ水中敷設物アル第三區内ノ水域モ亦前項ニ準ス

第十五條　第一區第二區及其ノ海岸竝之ニ注入スル水流ニハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切ノ物件ヲ委棄スルコトヲ禁ス
鎮守府司令長官ハ必要アリト認ムルトキハ第三區及其ノ海岸ニ物件ノ委棄ヲ禁シ臨時委棄ノ場所ヲ指示スルコトヲ得

第十六條　鎮守府司令長官ハ軍港要港水域内ニ於ケル有害ナル難破物、委棄物若ハ其ノ他ノ物件ハ艦船若シ其ノ委棄スヘキモノヲ自ラ處分スルコト能ハサルトキハ港務部ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ
原因ノ如何ニ關セス其ノ義務者ヲシテ之ヲ指定ノ期限内ニ除去セシムルコトヲ得其ノ義務者之ヲ除去セサルトキ若ハ指定ノ期限内ニ終了スル見込ナキトキハ鎮守府司令長官ハ自ラ之ヲ除去若ハ

破壊シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ除去若ハ破壊セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得其ノ義務者不明ナルトキハ鎮守府司令長官ハ之ヲ除去若ハ破壊スルコトヲ得

第十七條　軍港要港境域内ノ山林原野ニ於テハ濫リニ焚火スヘカラス

第十八條　軍港要港境域内ニ於テ左ニ掲クル諸項ノ新營若ハ變更ヲナサントスルモノアルトキハ地方長官ハ鎮守府司令長官ニ協議シテ之ヲ處理スヘシ

一　棧橋ノ架設、埠頭ノ築造
二　河床ノ變更、河川海面ノ埋立浚渫、海岸ノ掘鑿、海岸ニ於ケル石垣ノ築造
三　道路運河溝渠隧道ノ開通、橋梁鐵道ノ架設
四　地盤ノ開鑿及埋築
五　森林ノ伐採
六　軍港要港ノ水域内ニ發著スヘキ海運ノ營業
七　漁業權ノ設定
八　浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置
九　第一區第二區ノ沿岸ニシテ水面若ハ海軍用地ヲ距ル七百五十間以内ニ於ケル家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新築

第十九條　鎮守府司令長官ノ許可ヲ得スシテ軍港要港境域内ヲ航空シ又ハ同境域内水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、模寫、錄取シ若ハ地理案内等ノ圖書ヲ發行スルヲ禁ス但シ艦船運航ノ際行船ニ必要ナル錘測ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條ノ二　鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ軍港要港境域内ニ於テ無線電信無線電話ヲ發信スルコトヲ得ス但シ艦船航行中ノ通信及遭難通信又ハ軍用通信ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　鎮守府司令長官ハ軍港要港境域内ニ入リ兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ニ軍港要港境域外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　地方長官ハ軍港要港境域内衛生ノ事ニ關シテハ鎮守府司令長官ニ協議スヘシ

第二十二條　鎮守府司令長官ハ海軍用地ニ接近スル一般公路ニ於テ取締上必要ナリト認ムルトキハ地方長官ニ協議シ一般人民ノ通航ニ制限ヲ置クコトヲ得

鎮守府司令長官ハ海軍用地ノ内取締上差支ナシト認ムル區域ニ限リ一般人民ニ通行ヲ許スコトヲ得

第二十三條　軍港要港ノ境域竝其ノ區劃等ヲ表示スル標石標木標札ノ類若ハ其ノ水域内ニ設クル浮標等ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞スルコトヲ禁ス

第二十四條　軍港要港ノ取締ニ關スル細則ハ鎮守府司令長官之ヲ定ム

第二十五條　要港ニ於テハ本則ニ規定セル鎮守府司令長官ノ職務ハ要港部司令官、港務部長ノ職務ハ要港部港務部長之ヲ行フ

附　則

第二十六條　本則中地方長官ニ關スル規定ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督ニ

之ヲ適用ス

第二十七條　（削除）

第二十八條　本則ハ明治三十三年五月二十日ヨリ施行ス

第二十九條　明治二十九年海軍省令第六號横須賀軍港規則同年海軍省令第七號呉軍港規則同年海軍省令第八號佐世保軍港規則同年海軍省令第十三號竹敷要港規則及同三十年海軍省令第十四號舞鶴軍港規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

（圖略ス）

漁業法（明治四十三年四月二十一日法律第五十八號）

第一條　本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　公共ノ用ニ供セサル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條　公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セサル水面ニハ本法ヲ適用ス

前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業ニ關シ之カ利用ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第四條　漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五條　水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスルモノハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合カ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘス

第六條　前二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ準用ス

民法第二編第九章ノ規定ハ漁業權ニ之ヲ適用セス

第八條　漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁場ニ定著シタル工作物ハ民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ漁業權ニ附加シテ之ト一體ヲ爲シタルモノト看做ス

第九條　裁判所ノ土地ノ管轄カ不動産所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ以テ不動産所在地ト看做ス

第十條　漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス

地先水面專用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十一條　漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ

第十二條　入漁權者ハ設定行爲又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場內ニ入會ヒ其ノ專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第十三條　入漁權ハ物權ト看做ス

入漁權ハ相續及讓渡ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第十四條　入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ス

第十六條　漁業權ノ存續期間ハ二十年以內ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入セス

前項ノ期間ハ漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條　設定行爲ニ於テ存續期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ハ目的タル漁業權ノ存續中存續スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニテモ其ノ權利

ヲ抛棄スルコトヲ得

第十八條　入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　入漁料ハ入漁ヲ爲ササルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス

第二十條　入漁權ニ關シ前三條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ其ノ慣行ニ從フ

第二十一條　行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十二條　漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條　行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲ササル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス

第二十四條　水産動植物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十五條　錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十六條　免許漁業原簿ノ登錄ハ登記ニ代ハルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　漁業免許ノ取消アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ之ヲ登錄シタル抵當權者及先取特權者ニ通知スヘシ

前項ノ權利者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁業權ノ競賣ヲ請求

スルコトヲ得但シ第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間內又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セサリシモノト看做ス

第二十八條　漁業權ハ登錄シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割、變更又ハ拋棄スルコトヲ得ス

第二十九條　漁業者ハ左ニ掲クル目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

一　漁場ノ標識ノ建設

二　魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備

三　漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設

第三十條　漁業者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ナキ他人ノ土地ニ立入リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ支障木竹ヲ伐採シ又ハ障碍物ヲ除去スルコトヲ得

第三十二條　前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲ニ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第三十三條　行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第三十四條　地方長官ハ水產動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一　水產動植物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止

二　水產動植物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止

三　漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止
四　漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限
五　水産動植物ニ有害ナル物ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止
六　水産動植物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ命令ニハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ノ沒收並犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ價格ノ追徵ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十五條　汽船「トロール」漁業又ハ汽船捕鯨業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ主務大臣之ヲ定ム

第三十六條　爆發物ヲ使用シテ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ海獸捕獲ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條　主務大臣ハ遡河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ水面ノ一定區域内ニ於ケル工作物ノ設置ニ付制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ遡河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第三十八條　前條第二項ノ規定ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條　公共ノ用ニ供セサル水面ニシテ公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通スルモノニハ命令ヲ以テ第三十四條、第三十六條乃至第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四十條　漁業ニ從事スル者ノ雇傭並雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

第四十一條　海軍艦艇乘組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ捜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、捜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ準用セス

第四十二條　一定ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ市町村ノ區域又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキモノヲ以テ前項ノ市町村ト看做ス

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第四十三條　漁業組合ハ法人トス

漁業組合ハ漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

漁業組合ハ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得ス

組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十四條　漁業組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

第四十五條　漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

漁業組合聯合會ハ法人トス

第四十六條　漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條　行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條　漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　決議ノ取消

二　役員ノ解職

三　組合又ハ聯合會ノ解散

第四十九條　本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立、登記、管理、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條　漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

前二項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條　漁業者又ハ水産動植物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水産組合ヲ設クルコトヲ得

第五十二條　水産組合成立シタルトキハ其ノ地區内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　水産組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲水産組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

第五十四條　水産組合及水産組合聯合會ハ法人トシ重要物産同業組合法ヲ準用ス

第五十五條　漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對スル許否ニ不服アル者及第三條第二項、第二十二條、第二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十六條　漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十七條　民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依ル裁決又ハ判決ヲ待

ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者

二　免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者

三　專用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第五十九條　汽船「トロール」漁業ニ關シ第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル

漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徵ス

第六十條　漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十一條　漁場ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十二條　第四十一條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及臨檢搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條　營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第六十五條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第六十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十三年十一月勅令第四百二十八號ヲ以テ同四十四年四月一日ヨリ施行）

第六十七條　本法ハ獵虎及膃肭獸ノ漁獵ニ之ヲ適用セス

第六十八條　本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條　舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス

本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ

第七十條　本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス

第七十一條　舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限リ登錄ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第七十二條　本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第七十三條　舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限リ登記ナキモ其ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

漁業法施行規則

（明治四十三年十一月十二日農・商務省令第二五號）

改正（大正十五年六月二十三日農林省令第一四號）

第一章　總則

第一條　漁業ニ關スル出願、申請及屆出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ

一　專用漁業ニ關スルトキ

二　入漁權ニ關スルトキ

三　二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ

四　漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ

前項第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得農林大臣ノ處分ヲ爲シタルモノニ付亦同シ

第二條　農林大臣ニ出願、申請又ハ屆出ヲ爲サムトスルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第三條　漁業ニ關スル行政行爲ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス

第四條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願、申請又ハ屆出ヲ爲シタル者、漁業權者、入漁權者其ノ他漁業ニ關シ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シ書類ノ提出、訂正若ハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第五條　住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ

經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第六條　本則ニ依リ行政官廳ノ爲スヘキ公告ハ慣行ノ公布式ニ依ルモノトス

第七條　漁業法第三條第二項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ニシテ同條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ水面又ハ敷地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ出願スヘシ

願書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添附スヘシ

一　許可ヲ受ケムトスル事由書

二　占有者又ハ所有者タルコトヲ證スヘキ書面

三　許可ヲ受ケムトスル區域ノ圖面

四　漁業權ノ設定アルトキハ其ノ漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意書若シ其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

第八條　前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ地方長官ハ之ヲ公告シ若シ漁業權者其ノ他登錄シタル權利者アルトキハ之ヲ通知スヘシ

第九條　地方長官ハ漁業法第三條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可シタル區域ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第二章　漁業ノ免許

第十條　本則ニ於テ免許漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業、專用漁業及特別漁業ヲ謂フ

第十一條　本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ他ノ免許漁業ニ該當セスシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ第十四條各號ニ掲クル漁業ヲ謂フ

第十二條　定置漁業ノ種類左ノ如シ

一　臺網類漁業　敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

二　落網類漁業　落網、上網及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

三　桝網類漁業　側網及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

四　建網類漁業　曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

五　出網類漁業　垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

六　張網類漁業　嚢網又ハ立廻網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設若ハ敷設スルモノ

七　魞簗類漁業　一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ簀若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤等ヲ建設シテ陥穽ノ裝置若ハ魚堰ヲ設クルモノ

第十三條　區劃漁業ノ種類左ノ如シ

一　第一種　一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ篊ヲ建設シテ爲ス養殖業

二　第二種　土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業

三　第三種　前二號ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業

第十四條　左ニ掲クル漁業ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

一　第一種　一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

二　第二種　一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業
三　第三種　一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業
四　第四種　一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業
五　第五種　一定ノ網場ヲ有スル嚢待網漁業
六　第六種　一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業
七　第七種　一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業
八　第八種　一定ノ水面ニ漬場ヲ設クル鰡漁業
九　第九種　一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル漁業

第十五條　前三條ニ該當スル免許漁業ノ名稱ハ農林大臣別ニ之ヲ告示ス

第十六條　左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス
一　定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域
二　區劃漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域
三　專用漁業ニ在リテハ專用スル區域
四　特別漁業中第一種ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域、第二種ニ在リテハ追込場ノ區域、第三種及第四種ニ在リテハ網ノ使用區域、第五種及第六種ニ在リテハ網場ノ區域、第七種ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域、第八種ニ在リテハ漬場ノ區域、第九種ニ在リテハ築磯ノ區域

第十七條　水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ又ハ漁業ノ價値ナシト認ムル

トキハ漁業ノ免許ヲ與ヘス

漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意アル場合ヲ除クノ外既ニ免許ヲ與ヘタル漁業ト相容レスト認ムルトキ亦前項ニ同シ

前項ノ規定ハ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ニ之ヲ適用セス

第十八條　漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村內ノ獨立シタル區ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ北海道、沖繩縣、竝沖繩縣及島嶼町村制ヲ施行シタル島嶼ノ區又ハ町村內ノ一部ニ之ヲ適用ス

第十九條　第十七條第一項及第二項ノ規定ハ漁業權變更ノ許可ノ出願ニ之ヲ準用ス

第二十條　從來ノ慣行ニ因ル專用漁業權者ハ其ノ漁業ノ種類ヲ增加シ又ハ漁場ノ區域ヲ擴張スル變更ノ許可ヲ出願スルコトヲ得ス

第二十一條　地勢上漁業組合每ニ其ノ地先水面ヲ區分スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ區分カ著シク困難ナルトキハ關係漁業組合ハ共同シテ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願スルコトヲ得

第二十二條　漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ專用漁業ニ在リテハ漁場每ニ、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場每ニ願書二通ヲ作リ之ヲ出願スヘシ

願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及

一　名稱
二　漁獲物ノ種類
三　漁業時期
四　漁業權存續期間

第二十三條　前條ノ願書ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖二通ヲ添附スヘシ
前項ノ記載事項ノ外定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具ノ建設又ハ敷設ノ形狀ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ漁場ノ面積ヲ記載スヘシ

第二十四條　免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地カ他人ノ所有ニ屬スルトキ又ハ水面カ他人ノ占有ニ係ルトキハ其ノ所有者又ハ占有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ漁業ノ免許ノ願書ニ添附スヘシ

第二十五條　二人以上共同シテ漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ內一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ屆出テ又ハ出願ノ書面ニ記載スヘシ
前項ノ規定ニ依リ代表者ノ屆出又ハ記載ナキトキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ

第二十六條　代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得
代表者ニ變更アリタルトキハ行政官廳ニ之ヲ屆出ツヘシ
代表者ノ變更ハ前項ノ屆出ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十七條　前二條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利若ハ入漁權ヲ取得シタル者ニ之ヲ準用ス

第二十八條　代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ル代表者ハ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付其ノ共同者ヲ代表スル者ト看做ス

第二十九條　漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ
一　免許ノ番號
二　免許ノ年月日
三　漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
四　漁場ノ位置
五　漁業ノ種類及名稱
六　漁獲物ノ種類
七　漁業時期
八　漁業權ノ存續期間
九　免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ事項

第三十條　漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書二通ヲ作リ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ若シ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ、其ノ出願カ漁業權ノ分割又ハ漁場區域ノ變更ニ係ルトキハ尙其ノ分割又ハ變更スル漁場ノ漁場圖二通ヲ添附スヘシ

第二十三條ノ規定ハ前項ノ漁場圖ニ之ヲ準用ス

第三十一條　漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ更新期間ヲ定メ申請書二通ヲ作リ存續期間滿了ノ日ヨリ少クトモ三月前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ慣行ニ因リ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ヲ許可シタルトキ又ハ漁業權存續期間ノ更新ヲ免許シタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第三十三條　漁業ノ免許ヲ取消シ、免許シタル漁業ヲ制限若ハ停止シ又ハ其ノ處分ヲ變更若ハ取消シタルトキハ當該官廳ハ之ヲ公告シ且遲滯ナク登錄シタル權利者ニ通知スヘシ但シ地方長官ノ免許シタル漁業ニ關シ農林大臣ノ爲シタル處分ノ通知ハ地方長官之ヲ爲スヘシ

第三十四條　漁業法第二十五條ノ規定ニ依リ地方長官漁業ノ免許ヲ取消サムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條　漁業法第十條第二項ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ其ノ持分ノ處分ヲ爲ストキハ他ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ、拋棄ヲ爲ストキハ登錄シタル權利者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三十六條　免許漁業ニ付休業ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ休業期間ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ

受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲スニ至リタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ツヘシ

休業認可ノ期間內漁業ヲ爲シタルトキハ爾後認可ノ效力ヲ失フ

第三十七條　漁業權ヲ拋棄シタルトキハ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ニハ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ屆出アリタルトキハ行政官廳ハ之ヲ公告スヘシ

第三章　土地ノ使用

第三十八條　漁業法第二十九條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

一　土地ノ使用ニ付テハ其ノ所在、地番、種目及面積、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的、時期及期間

二　立木竹若ハ土石ノ除去ノ制限ニ付テハ其ノ種類、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的及期間

第三十九條　前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ行政官廳ハ所有者及占有者ニ之ヲ通知シ且公告スヘシ

第四十條　漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九條乃至第三十一條ノ許可ハ其ノ承繼人及其ノ漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲ニモ效力ヲ有ス

第四十一條　漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地ノ所在、地番、種目、面積及現況、

所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

第四十二條　第三十八條及第四十一條ノ行政官廳ハ土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ヲ管轄スル地方長官トス但シ土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ト漁場トヲ管轄スル地方長官異ナルトキ又ハ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ノ爲ナルトキハ之ヲ農林大臣トス

前項但書ノ場合ニ於テハ農林大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得

第四十三條　漁業法第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地又ハ支障木竹若ハ障碍物ノ所在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ出願スヘシ

第四十四條　漁業法第三十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入又ハ支障木竹ヲ伐採シ若ハ障碍物ヲ除去セムトスル者ハ當該官廳ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第四章　蕃殖保護及漁業取締

第四十五條　漁業法第三十四條ニ依ル命令ハ官廳又ハ公署ニ於テ調査又ハ試驗ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス養殖、學術、研究其ノ他特別ノ事由ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合亦同シ

第四十六條　水産動植物ヲ痲痺又ハ斃死セシムヘキ有毒物ヲ使用シテ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス

第四十七條　漁業法第三十六條又ハ前條ノ規定ヲ犯シ採捕シタル水産動植物ハ之ヲ所持又ハ販賣スルコトヲ得ス

第四十八條　遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第四十九條　行政官廳ハ漁業取締ノ爲定置漁業及特別漁業ニ付命令ヲ以テ保護區域ヲ設クルコトヲ得

保護區域ヲ設クルトキハ其ノ漁業ノ妨害ト爲ルヘキ漁業ノ制限若ハ禁止ニ付規定ヲ設クヘシ

第五十條　左ニ掲クル漁業ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　藻手繰網漁業
二　藻漕網漁業
三　藻打瀨網漁業
四　藻曳網漁業
五　潛水器漁業
六　空釣繩漁業

前項ノ漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ公示スヘシ

地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下附スヘシ

第五十一條　前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帶スヘシ

第五十二條　地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標識ヲ建設スヘシ

第五十三條　漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示スヘシ

第五十四條　臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五章　裁決

第五十五條　漁業法第五十六條第一項ノ裁決ヲ申請セムトスルトキハ漁業權ニ關シテハ漁業ノ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ、入漁權ニ關シテハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキ又ハ漁業權者、入漁權者間ノ爭ニ關スルトキハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ

第五十六條　裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所

二　申請ノ目的及理由

三　立證

申請書ニハ證據書類ヲ添附スヘシ

第五十七條　申請書ニハ相手方ノ數ニ應シ前條書類ノ副本ヲ添附スヘシ

第五十八條　行政官廳ニ於テ裁決ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第五十九條　裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

第六章　罰則

第六十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四十六條又ハ第四十七條ノ規定ヲ犯シタル者

二　禁漁區內ニ於テ其ノ禁止シタル水產動植物ヲ採捕シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第四十八條又ハ第五十條第一項ノ規定ヲ犯シタル者

二　禁漁區又ハ第九條ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者

第六十二條　第五十一條ノ規定ヲ犯シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第六十三條　本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條　本則施行前漁業ニ關シ農商務大臣又ハ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ牴觸セサルモノハ漁業法及本則ニ依リ之ヲ發シタルモノト看做ス

第六十五條　本則施行前ノ漁業ニ關スル申請ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（大正十五年六月農林省令第一四號）

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ郡長又ハ島司ニ對シ爲シタル出願ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看

做ス

港灣區域內漁業免許ノ取扱ニ關スル件

（昭和四年四月十八日三水第四四六二號
沿海各地方長官宛、農林、內務兩次官通牒）

港灣區域內ニ漁業權ヲ新ニ設定スルハ港灣ノ公共ノ利用就中港灣工事上影響ヲ及ホスコト尠カラサルノミナラス港灣利用ノ增進ニ伴ヒ漁業者ノ蒙ムルヘキ危險モ亦漸次增加スヘキヲ以テ港灣內ニ於テ漁業ノ免許ヲ爲スハ將來相當考慮ヲ要スル義ニ付爾今左記ニ準據シ御處理相成度及通牒候也

記

一　國又ハ公共團體ニ於テ現ニ港灣ノ修築工事ヲ施行シ又ハ施行スヘキ具體的計畫ノ存スル區域ニ限リ其ノ區域內ニ於テハ新ニ漁業ノ免許ヲ爲サヽルコト但シ工事著手ノ時期、工事ノ實況又ハ港灣ノ利用ノ現況ノ如何ニ依リ港灣工事又ハ港灣ノ用途若クハ目的ヲ著シク妨ケサル場合等貴官ニ於テ支障ナシト認ムル限リ將來漁業法第二十四條ノ規定ニ該當スルニ至ラハ同條ニ依リ免許漁業ノ制限若ハ停止又ハ免許ノ取消ヲ爲スコトアルヘキ旨ノ豫告的條件ヲ附シ免許シ支障ナシ

二　更新免許ニ付テハ權利者ノ既得ノ利益ニ關係アルヲ以テ前號ト同一ニ取扱フヲ得サルモ既存ノ利益ヲ害セサル範圍ニ於テ可成右趣旨ヲ參酌シ處理スルコト

耕地整理法

（明治四十二年四月十三日法律第三〇號）

改正（明治四三年四月法第四四號、大正三年三月第三二號、八年四月第四五號）

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ土地ノ農業上ノ利用ヲ增進スル目的ヲ以テ本法ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フヲ謂フ

一　土地ノ交換、分合、開墾、地目變換其ノ他區劃形質ノ變更、湖海ノ埋立、干拓若ハ道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置又ハ之ニ伴フ灌漑排水ニ關スル設備若ハ工事

二　前號ノ事項施行ノ爲若ハ施行ノ結果必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ設備又ハ其ノ維持管理

三　開墾又ハ湖海ノ埋立若ハ干拓ニ依ル耕地整理ニ附隨シテ行フ整理施行地ノ利用ニ關スル必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ施設

四　前三號ノ事項ニ關シ必要アルトキ國、府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ認許ヲ得テ行フ營造物ノ修繕

第二條　本法ニ於テ關係人ト稱スルハ整理施行地ニ付所有權以外ノ登記シタル權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第二條ノ二　登記シタル地上權、永小作權、土地賃借權ヲ有スル者又ハ國有林野法若ハ官有地取扱規則ニ依ル豫約開墾者ハ土地ノ所有者及賃貸人ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ土地ニ付第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者及賃貸人ハ其ノ土地ニ付テハ整理施行者又ハ組合員タルコトヲ得ス

第二條ノ三　官有地取扱規則ニ依リ埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ土地ノ所有者ト看做ス

耕地整理組合ノ組合員ト爲リ又ハ爲ルヘキ地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約開墾者ハ第三十四條、第四十七條乃至第五十條、第五十五條、第五十六條及第五十九條ノ適用ニ付テハ之ヲ土地ノ所有者ト看做ス

第三條　耕地整理ヲ施行セムトスルトキハ設計書ヲ作リ關係人ノ同意書竝第二條ノ二ノ場合ニ於ケル土地ノ所有者及賃貸人ノ同意書ヲ添ヘ數人共同シテ施行セムトスルモノニ在リテハ尙規約ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

設計書、規約若ハ整理施行地區ヲ變更シ若ハ一人ニテ施行スル耕地整理ヲ變シテ數人共同ノ施行ト爲シ又ハ事業ヲ停止若ハ廢止セムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ耕地整理施行ノ爲爲シタル借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ事業ヲ廢止シ、整理施行地區ヲ減少シ又ハ債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更スルコトヲ得ス

前項整理施行地區ノ變更ニ依リ新ニ整理施行地區ニ編入セラルヘキ土地ニ付テハ第一項ノ同意書ニ關スル規定ヲ準用ス

地方長官第一項又ハ第二項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前五項ノ規定ハ耕地整理組合ニ之ヲ適用セス

第四條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ整理施行地ノ所有者、占有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條　整理施行地ノ所有者ニ屬スル耕地整理ニ關スル權利義務ハ土地ノ所有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ整理施行者又ハ組合員ト爲リタル者ノ耕地整理ニ關スル權利義務ハ其ノ地上權、永小作權、賃借權又ハ國有林野法若ハ官有地取扱規則ニ依ル權利ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉シ地上權、永小作權又ハ賃借權消滅シタルトキハ帝室及國ヲ除クノ外土地ノ所有者又ハ賃貸人ニ移轉ス

第六條　本法中別ニ規定アル場合ヲ除クノ外土地ノ所有者、占有者、關係人其ノ他整理施行地ニ付權利ヲ有スル者ハ耕地整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第七條　主務大臣、地方長官又ハ郡長耕地整理ニ關スル調査ヲ爲ス爲必要アルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲シ障害ノ竹木土石等ヲ移轉若ハ除去セシムルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ土地ノ占有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條　前條ノ規定ハ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セムトスル者又ハ整理施行者カ整理施行ノ爲必要ナル準備ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セムトスル者又ハ整理施行者ハ整理施行地ヲ管轄スル登記所、漁業ニ關スル登錄官廳、土地臺帳所管廳、市役所又ハ町村役場ニ就キ無償ニテ耕地整理ニ關シ必要ナル簿書ノ閲覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得但シ登記所、漁業ニ關スル登錄官廳又ハ土地臺帳所管廳ハ必要アリト認ムルトキハ耕地整理組合若ハ耕地整理組合聯合會ノ組合長組合副長若ハ聯合會會長聯合會副會長又ハ臨時代理者以外ノ者ニ付其ノ資格ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十條　耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登錄ヲ爲ストキハ登錄稅ヲ免除ス

前項ノ規定ハ耕地整理ノ施行ニ伴ヒ大字若ハ字ノ名稱又ハ其ノ區域ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　耕地整理ヲ施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付ス

耕地整理ノ施行ニ依リ開設シタル道路、堤塘、溝渠、溜池等ニシテ前項廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十二條　本法ニ依ル開墾、地目變換其ノ他土地ノ區劃形質ノ變更又ハ道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ變更廢置ニ關シテハ地租條例第十條、第十一條及第十六條乃至第十九條ノ規定ヲ適用セス埋立地又ハ干拓地ニ付亦同シ

第十三條　耕地整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ整理施行地區內土地ノ現地價ノ合計額ヲ毎筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム但シ第十一條第二項ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ面積カ同條第一項ニ依リ交付シタル土地ノ面積ヨリ多キ場合ニ於テハ整理施行地ノ現地價ノ平均額ヲ其ノ面積ノ差額ニ乘シタル金額ヲ現地價ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ現地價ノ合計額ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ地租ノ稅率同一ナラサル土地アルトキハ現地價ニ依リ

算出シタル地租ノ合計額ヲ毎筆相當ニ配賦シ當該地目ノ稅率ヲ以テ除シタル金額ヲ其ノ配賦地價トス但シ第十一條第二項ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ面積カ同條第一項ニ依リ交付シタル土地ノ面積ヨリ多キ場合ニ於テハ現地價ニ依リ算出シタル地租ノ平均額ヲ其ノ面積ノ差額ニ乘シタル金額ヲ地租ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ地租ノ合計額ト看做ス

前二項ノ規定ハ國有ノ森林、原野若ハ荒蕪地ヲ第一類地ニ開拓シタル土地、埋立地又ハ干拓地ニ付テハ之ヲ適用セス

整理施行地ノ地租ハ其ノ整理施行地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スル迄從前ノ地域、地目及地價ニ依リ之ヲ徵收ス

規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ其ノ各區ヲ以テ第一項第二項及第四項ノ整理施行地區ト看做ス

第十四條　耕地整理ヲ施行スルニ當リ其ノ地區內ノ民有土地總面積ノ五分ノ一以上ニ當ル土地ニ付開墾又ハ地目變換ヲ爲シタル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正シ修正地價總額ト之ニ對スル原地價總額トノ差額ノ平均額ヲ五分ノ一ヲ超過スル面積ニ乘シタル額ヲ原地價總額ニ加ヘタルモノヲ以テ前條第一項ノ現地價トス

前項ノ場合ニ於テハ開墾シタル土地ニ付テハ工事著手ノ年ヨリ四十年、變換シタル土地ニ付テハ工事完了ノ年ヨリ六年ノ耕地整理地價据置年期ヲ許可シ年期明ノ年ヨリ修正地價ニ依リ其ノ地租ヲ徵收ス但シ開墾シタル土地ニシテ年期明ニ至リ工事完了又ハ地味成熟セサルトキハ更ニ工事完了迄又ハ十年以內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル地目變換ハ之ヲ開墾ト看做ス

地租ヲ課セサル土地ヲ整理施行地區ニ編入シ地租ヲ課スヘキ土地ト爲シタルトキハ第十一條第一項ニ依リ交付シタル土地ヲ除クノ外工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ設定シ前條第一項ノ現地價トス

第二項ノ規定ハ地目變換ヲ爲シタル場合ニ於テ修正地價ニ依リ算出シタル地租額カ原地價ニ依リ算出シタル地租額ヨリ少キ土地ニ付テハ之ヲ適用セス

第十四條ノ二　耕地整理ノ施行ニ依リ其ノ地區内ノ國有ノ森林、原野若ハ荒蕪地ヲ開拓シテ第一類地ト爲シタルトキ又ハ國有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シテ民有地ト爲シタルトキハ埋立地又ハ干拓地ニ付テハ六十年、其ノ他ノ土地ニ付テハ二十年ノ耕地整理新開免租年期ヲ許可ス但シ年期明ニ至リ地味成熟セサルトキハ更ニ十年以内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ年期明ニ至リ其ノ地價ヲ設定シ其ノ年ヨリ地租ヲ徴收ス

第十五條　整理施行地區内ノ土地中開墾著手後二十年ヲ經過セサルモノ又ハ地租ノ免除若ハ輕減ニ關スル各種ノ年期ヲ有スルモノアルトキハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一　開墾ヲ爲シタル土地又ハ鍬下年期、新開免租年期、地價据置年期ヲ有スル土地ハ工事著手ノ際地價ヲ修正シ又ハ設定ス但シ工事完了ノトキニ於テ地價ノ修正又ハ設定當時ノ現況ヨリ第一類地ノ地目ニ變更シタル場合ニ於テハ開墾又ハ地目變換ヲ爲シタルモノト看做シ第十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

二　荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地ハ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

三　第一號ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ設定シタル土地ニ付テハ開墾著手後二十一年目、又ハ年期明ニ至リ修正地價又ハ設定地價ニ依リ地租ヲ徴收ス但シ工事完了シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四　工事完了シタルトキハ第一號若ハ第二號ニ記載シタル土地ニ付テハ修正地價又ハ設定地價ヲ以テ第十三條第一項ノ現地價トス

第十六條　工事完了シタルトキニ於テ開墾著手後二十年ヲ經過セサル土地若ハ前條ニ記載スル年期ヲ有スルモノニシテ年期ノ終了セサル土地又ハ

第十四條ニ依リ年期ヲ許可シタル土地アルトキハ事業關係者ハ其ノ協議ヲ以テ修正地租ト從前ノ地租トノ差額ノ利益若ハ負擔又ハ地租ノ免除ヲ受クヘキ土地及金額ヲ定メ政府ニ申告シ殘年期間又ハ第十四條ニ依ル年期中ハ其ノ金額ヲ加除シテ其ノ土地ノ地租ヲ納ムヘシ但シ協議一致セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ定ム

第十七條　換地ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外第三十條第四項ノ告示ノ日ヨリ之ヲ從前ノ土地ト看做ス

前項ノ規定ハ行政上又ハ裁判上ノ處分ニシテ從前ノ土地ニ專屬スルモノニ影響ヲ及ホサス

第十八條　賃借地ニ付耕地整理施行ノ爲賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ賃借人ハ整理施行者ニ對シ解除ニ依リ生シタル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得但シ整理施行者ハ規約ノ定ムル所ニ依リ賃貸人ニ對シ求償スルコトヲ得

第十九條　耕地整理施行ノ爲賃借地ノ利用ヲ妨ケラルルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ減額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第二十條　耕地整理施行ノ爲著シク賃貸地ノ利用ヲ增シタルトキハ賃貸人ハ借賃ノ相當ノ增額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ニ於テ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲シ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第二十一條　耕地整理施行ノ爲地上權、永小作權又ハ地役權ヲ設定シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ地上權者、永小作權者又ハ地役權者ハ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　整理施行地ノ上ニ存スル地役權ハ耕地整理施行ノ後仍從前ノ土地ノ上ニ存ス

耕地整理施行ノ爲地役權者カ其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ地役權ハ消滅ス

耕地整理施行ノ爲從前ト同一ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル地役權者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍內ニ於テ地役權ノ設定ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　第十九條及第二十條ノ規定ハ地上權、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二十四條　前六條ノ規定ニ依ル賃貸借ノ解除、地上權若ハ永小作權ノ拋棄、地役權ノ拋棄若ハ設定又ハ借賃、地代、小作料若ハ地役ノ對價ノ減額、拂戾若ハ增額ノ請求ハ第三十條第四項ノ告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條ノ二　第十八條乃至第二十一條及前二條ノ規定ハ地上權者、永小作權者又ハ賃借權者ニシテ整理施行者又ハ組合員ト爲リタル者ニ之ヲ適用セス第二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ同意ヲ爲シタル者ニ付亦同シ

第二十五條　整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニシテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ第二十七條、第二十八條、第三十條第一項、

第二項又ハ第四十四條第二項ノ規定ニ依リ拂渡スヘキ金錢アルトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ整理施行地又ハ之ニ存スル建物カ訴訟ノ目的タル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

先取特權者、質權者、抵當權者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル金錢ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十五條ノ二　整理施行地ニ付存スル漁業權カ登錄シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ補償金ヲ拂渡スヘキトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ整理施行地ニ付存スル漁業權又ハ入漁權カ訴訟ノ目的タル爲訴訟當時者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

登錄シタル先取特權者若ハ抵當權ヲ有スル者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規

定ニ依リ供託シタル金錢ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條　第三條ノ規定ニ依ル整理施行者カ其ノ事業ノ爲借入レタル金額及其ノ利息其ノ他耕地整理ノ施行ニ依リ生シタル債務ニ付テハ共同施行者連帶シテ其ノ責ニ任ス但シ規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

帝室及國ハ前項ノ責ニ任セス

第二十七條　整理施行者ハ耕地整理施行ノ爲必要アルトキハ整理施行地區內ノ工作物又ハ木石等ヲ移轉シ、除却シ又ハ破毀スルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

第二十七條ノ二　整理施行地ニ付漁業權存スル場合ニ於テハ漁業權者ニ對シ、漁業權及入漁權存スル場合ニ於テハ漁業權者及入漁權者ニ對シ整理施行者ハ整理施行ニ依リ生スヘキ損害ヲ補償スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル補償ヲ受クル權利ハ漁業權者及入漁權者共同シテ之ヲ有スルモノトス

整理施行者ハ前二項ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲シタル後ニ非サレハ工事ニ著手スルコトヲ得ス但シ其ノ損害ノ補償ヲ受クル權利者ノ同意ヲ得タルトキ、第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキ又ハ第八十七條第三項ノ規定ニ依リ決定ヲ得タル金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條　第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合員ハ耕地整理施行ノ爲受ケタル損害ニ對シ第七條、第八條又ハ第二十七條ノ場合ヲ除クノ外補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　整理施行地ニ付權利ヲ有スル者耕地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可又ハ耕地整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示アリタル後ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加增置シタルトキハ之ニ關スル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

前項告示ノ後ニ於テ土地ニ付權利ヲ取得シタル者ハ從前ノ權利者ノ爲シ得ヘキ範圍內ニ於テノミ損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

第三十條　換地ハ從前ノ土地ノ地目、面積、等位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、面積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ淸算スヘシ

特別ノ事情ノ爲前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルモノノ處分ニ關シテハ規約ノ定ムル所ニ依ル

前二項ノ規定ニ依ル處分ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ告示シ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ

第三十一條　前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　整理施行地二以上ノ市町村、大字又ハ字ニ涉ル場合ニ於テ一筆ノ土地ノ區域ハ二以上ノ市町村、大字又ハ字ニ涉リテ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第三十三條　從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付既登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アルトキハ之ニ對スル換地ノ交付ハ其ノ權利又ハ處分ノ制限ノ目的タル土地又ハ其ノ部分ヲ指定シテ之ヲ爲スヘシ

第三十四條　本法中土地所有者ノ數ヲ計算スル場合ニ於テハ共有者ハ之ヲ一人ト看做ス但シ共有者ノミ共同シテ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ第五十條、第五十五條第二項、第五十六條第二項、第六十五條第二項又ハ第六十八條第二項中土地ノ面積又ハ地價ハ共有者ノ持分ニ依リ之ヲ定ム

第三十五條　住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依ル耕地整理ニ關スル書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ整理施行者又ハ監督官廳カ公告ヲ爲ストキハ其ノ公告ノ日ヲ以テ書類ヲ發送シ

タルモノト看做シ二十日ヲ經過スルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付ヲ了リタルモノト看做ス

第三十六條　第三十條第三項ノ認可ヲ受ケタルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク既登記ノ土地及建物ニ付登記ヲ申請スヘシ

第三十七條　整理施行地區內ノ土地及其ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第三十八條　共同施行又ハ耕地整理組合ニ依ル耕地整理ノ事業ニシテ郡、市町村又ハ水利組合ニ依リ施行スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ヲ郡、市町村若ハ水利組合ニ引繼キ又ハ耕地整理組合ヲ普通水利組合ニ變更スヘシ

前項ノ規定ニ依ル引繼又ハ變更アリタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三條第五項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條　監督官廳ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ本法ノ規定ニ依ル職權ノ一部ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第四十條　本法中府縣。郡、市町村。郡長、市町村長、市役所又ハ町村役場トアルハ府縣制、郡制、市制、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

第四十條ノ二　整理施行地區カ數府縣ニ涉ル場合ニ於テハ本法中地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官中主務大臣ノ指定スルモノ之ヲ行フ

第二章　耕地整理組合

第一款　總則

第四十一條　耕地整理ヲ施行スル爲必要アルトキハ耕地整理組合ヲ設立スルコトヲ得

耕地整理組合ハ法人トス

第四十二條　耕地整理組合ハ整理施行地ヲ以テ其ノ地區トス

第四十二條ノ二　耕地整理施行ノ爲土地ヲ分筆スルノ必要アル場合ニ於テハ組合ハ其ノ所有者ニ代リ之ニ關スル手續ヲ爲スコトヲ得

第四十三條　左ニ揭クル土地ハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ第一號乃至第三號ノ土地ニ付テハ主務官廳又ハ公共團體ノ認許、第四號乃至第八號ノ土地ニ付テハ土地所有者、關係人及建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　御料地、國有地
二　官ノ用ニ供スル土地
三　府縣、郡、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地
四　名勝地、舊蹟地
五　古墳墓地、墳墓地
六　社寺境內地
七　鐵道用地、軌道用地
八　建物アル宅地

登記シタル地上權又ハ永小作權ノ目的タル御料地又ハ國有地ニ付主務官

廳ノ認許ヲ得タルトキハ其ノ地上權者又ハ永小作權者ヲ組合員ト爲シ其ノ土地ヲ組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得但シ地上權又ハ永小作權ノ殘存期間カ耕地整理組合設立ノ認可申請ノ日ヨリ二十年未滿ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條ノ二第二項及第五條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ地上權者又ハ永小作權者カ組合員ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條　特別ノ價値又ハ用途アル土地ハ土地所有者及關係人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地收用法第四十七條乃至第四十九條、第五十一條乃至第五十四條、第五十六條、第五十八條、第六十條及第六十一條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ組合ノ設立又ハ地區變更ノ認可ノ告示ヲ以テ土地收用法第十九條ノ規定ニ依ル公告又ハ通知ト看做ス

第一項但書ノ場合ニ於テ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲サヽルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ其ノ土地ニ付工事ノ施行ヲ拒ムコトヲ得但シ第八十七條第一項ノ規定ニ依リ決定ヲ得タル金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條　耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ其ノ地區內ニ土地ヲ所有スル者ハ總テ之ヲ組合員トス但シ第十一條第一項ノ土地ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　耕地整理組合ノ名稱中ニハ耕地整理組合ナル文字ヲ用フヘシ

耕地整理組合ニ非サルモノハ耕地整理組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第四十七條　土地ノ共有者ハ耕地整理ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲其ノ一人ヲ以テ代表者ト爲シ之ヲ組合ニ通知スヘシ

前項ノ代表者ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十八條　前條ノ委任ノ終了ハ組合ニ通知アル迄之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十九條　第四十七條第一項ノ手續ヲ爲サヽル土地共有者ニ對スル書類ノ送付ハ其ノ一人ニ對シ之ヲ發送シタル時ニ於テ完了シタルモノト看做ス

第二款　組合ノ設立及解散

第五十條　耕地整理組合ヲ設立セムトスルトキハ組合ノ地區タルヘキ區域內ノ土地所有者總數ノ二分ノ一以上ニシテ其ノ區域內ノ土地ノ總面積及總地價ノ各三分ノ二以上ニ當ル土地所有者ノ同意ヲ得テ設計書及規約ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ土地所有者中共有者アル場合ニ於テハ各共有地ニ付共有者總數ノ二分ノ一以上ニシテ其ノ持分ノ三分ノ二以上ニ當ル者ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ共有地ニ付同意アリタルモノト看做ス

第五十一條　耕地整理組合ハ前條地方長官ノ認可ニ依リ成立ス

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ組合設立ノ旨ヲ告示スヘシ

組合ハ前項ノ告示アル迄其ノ成立ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十二條　組合設立ニ關スル費用ハ組合設立ノ後組合ノ負擔トス

第五十三條　組合ハ左ノ事由ニ依リ解散ス但シ第二號ノ場合ニ於テ還了セサル組合債アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　規約ニ定メタル事由ノ發生
二　目的タル事項ノ完成又ハ完成ノ不能
三　總會ノ議決
四　合併
五　事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼キタルトキ
六　普通水利組合ニ變更シタルトキ
七　組合員一人ト爲リタルトキ
八　監督官廳ノ處分

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ第三號又ハ第四號ニ該當スルトキヲ除クノ外其ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十四條　組合ニ於テ設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ヲ爲サムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合債ヲ負擔スルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ組合ノ解散、合併、地區ノ減少又ハ債務分擔ニ關スル規約ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十五條　組合ノ地區ヲ變更スル場合ニ於テ新ニ組合ノ地區ニ編入セラルヘキ土地アルトキハ組合長ハ設計書案及規約案ヲ作リ編入區域ノ土地所有者ノ總會議ニ付シ其ノ議決ヲ前條ノ總會ノ議決ニ添附スヘシ

前項ノ總會議ノ議決ヲ爲スニハ第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ土地所有者ノ代理人ヲ許スコトヲ得

第六十六條ノ規定ハ第一項ノ總會議ニ之ヲ準用ス

第五十六條　前條ノ總會議ハ編入區域ノ土地所有者ノ同意ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十條ノ規定ハ前項ノ同意ニ之ヲ準用ス

第五十七條　設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ハ第五十三條第二項又ハ第五十四條第二項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十八條　組合ヲ合併シタルトキハ合併ニ依リ解散シタル組合ニ屬スル權利義務ハ合併後存續シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ移轉ス

第五十九條　組合員一人ト爲リタル爲組合解散ノ場合ニ於テハ其ノ事業ハ一切ノ權利義務ト共ニ土地所有者ニ移轉ス

前項ノ土地所有者ハ之ヲ第三條ノ規定ニ依ル整理施行者ト看做ス

第六十條　組合解散シタルトキハ第五十三條第一項第四號、第六號又ハ第七號ノ場合ヲ除クノ外清算ヲ爲スヘシ

組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第三款　組合ノ會議

第六十一條　別ニ規定アルモノノ外左ニ揭クル事項ハ總會ノ表決ヲ經ヘシ

一　第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲ス事

二　組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事

三　經費ノ收支豫算ヲ定ムル事

四　豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

五　組合長、組合副長若ハ評議員ヲ選任シ又ハ解任スル事

六　組合費、夫役現品ノ分賦收入ニ關スル事

七　事業報告書及收支決算書ヲ承認スル事

八　工作物又ハ設備ノ維持管理方法ヲ定ムル事

九　訴願、訴訟及和解ニ關スル事

十　耕地整理組合聯合會ヲ設ケ、聯合會ニ加入シ又ハ聯合會ヲ脫退スル事

十一　規約ニ定メタル事項
十二　其ノ他組合長ニ於テ重要ナリト認メタル事項

第六十二條　總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ評議員會ニ委任シ又ハ組合長ヲシテ專決セシムルコトヲ得

評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條　總會ノ表決ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ召集スル暇ナシト認ムルトキハ組合長ハ專決處分シ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ但シ設計書、規約若ハ組合地區ノ變更又ハ組合ノ解散若ハ合併ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

組合長前項ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ其ノ處分前評議員會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ評議員ヲ置カサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　總會ハ總組合員ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十五條　總會ハ組合長之ヲ招集ス

組合員總數ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ組合地區内ノ土地ノ總面積若ハ

總地價ノ五分ノ一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルトキハ組合長ハ十四日以内ニ之ヲ招集スヘシ

第六十六條　總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ五日前ニ會議ノ日時、場所及目的ヲ記載シテ各組合員ニ通知ヲ發スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ニ於テハ期間ヲ二日迄短縮スルコトヲ得

第六十七條　組合員ハ各一箇ノ表決權ヲ有ス但シ規約ヲ以テ表決權總數ノ五分ノ一ヲ超過セサル範圍内ニ於テ一人ニ付二箇以上ノ表決權ヲ有セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ第六十八條第二項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第六十八條　總會ノ議事ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外組合員ノ半數以上出席シ出席者ノ表決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五十四條又ハ第六十一條第一號、第二號若ハ第五號ノ事項ノ表決ヲ爲スニハ第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ命令又ハ規約ニ別段ノ

規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條　組合員ハ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ表決權ヲ行フ者ハ出席者ト看做ス

第七十條　第三十一條但書ノ規定ニ依リ第三十條ノ處分ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ其ノ處分ヲ爲サムトスル土地ニ關スル組合員ノ總會議ヲ以テ總會ト看做ス

第七十一條　組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ選擧シタル議員ヲ以テ組織スル組合會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

第七十二條　總會ニ關スル規定ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前二條ノ規定ニ依ル組合員ノ總會議又ハ組合會ニ之ヲ準用ス但シ組合會ニ於テハ組合ノ解散又ハ合併ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四款　組合ノ管理

第七十三條　組合ニ組合長一人及組合副長一人又ハ數人ヲ置ク

組合長又ハ組合副長ハ組合員中ヨリ之ヲ選擧ス但シ特別ノ事情アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選擧スルコトヲ得

組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

組合長、組合副長共ニ闕員ト爲リタルトキハ地方長官ハ臨時代理者ヲ指定スルコトヲ得

地方長官前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘ又ハ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

組合長、組合副長又ハ臨時代理者ノ就任若ハ解任ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十四條　組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ管理ス

組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス組合副長數人アルトキハ其ノ代理ノ順序ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第七十五條　組合長ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十六條　組合ニ評議員ヲ置ク但シ特別ノ事情アル爲地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

評議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選擧ス

評議員ハ組合長ノ諮詢ニ應シ竝業務及財産ノ狀況ヲ監査ス

組合長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ評議員ヲシテ組合ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第七十七條　組合長ハ設計書、規約、組合員名簿、會議ノ議事錄其ノ他組合ニ關スル書類及帳簿ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閲覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五款　組合ノ財務

第七十八條　組合ノ費用ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

夫役現品ノ分賦及之ニ代ルヘキ金額ニ關スル規定ハ規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第七十九條　組合員ニシテ組合費、第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依リ

支拂フヘキ金錢又ハ延滯利息若ハ過怠金ヲ滯納スルトキハ市町村ハ組合長ノ請求ニ依リ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

前項ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額中百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

第一項ノ徵收金ハ組合地區內ノ土地ニ關シ市町村、水利組合其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有ス

前三項ノ規定ハ組合員カ夫役現品ニ代ルヘキ金錢ヲ滯納スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十條　組合ニ於テ負債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ負債ハ起債ノ時ヨリ十五年以內ニ之ヲ還了スヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ限リ五十年以內ト爲スコトヲ得

第八十一條　組合ニシテ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルトキハ帝室及國ヲ除クノ外組合員ハ之ニ付連帶無限ノ責任ヲ負擔ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二章ノ二　耕地整理組合聯合會

第八十一條ノ二　耕地整理組合ハ登記手續ニ關スル事項ヲ除クノ外其ノ事業ノ一部ヲ他ノ耕地整理組合ト共同シテ行ハムトスル場合ニ於テ之ヲ代リ行ハシムル爲協議ニ依リ設計書及規約ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ得テ耕地整理組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

聯合會ハ法人トス

聯合會其ノ所屬組合ノ增減ヲ爲サムトスルトキハ各組合ノ協議ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

聯合會ニ會長一人及副會長一人又ハ數人ヲ置ク

第四十二條ノ二、第四十六條、第五十一條乃至第五十四條、第五十七條乃至第五十九條第一項、第六十條、第七十三條乃至第七十五條及第七十七條乃至第八十一條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第五十九條第一項中土地所有者トアルハ組合、第七十三條中組合員トアルハ聯合會所屬組合ノ組合員トス

第三章　監督

第八十二條　耕地整理ハ第一次ニ郡長、第二次ニ地方長官、第三次ニ主務大臣之ヲ監督ス但シ整理施行ノ區域郡市若ハ數郡ニ渉リ又ハ市內ニ止ル場合ニ於テハ第一次ニ地方長官、第二次ニ主務大臣之ヲ監督ス

第八十三條　主務大臣又ハ地方長官ニ於テ會議ノ表決又ハ整理施行者ノ行爲カ設計書、規約又ハ法令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ會議ノ表決ヲ取消シ、組合長、組合副長若ハ聯合會會長、聯合會副會長ヲ解任シ、評議員若ハ組合會議員ノ改選、事業ノ停止若ハ組合、組合聯合會ノ解散ヲ命シ又ハ整理施行ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第八十四條　監督官廳ハ整理施行者ヲシテ耕地整理事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ、書類、帳簿、出納又ハ工事ヲ檢査シ、設計書又ハ規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第八十五條　監督官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル認可申請ニ對シ申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ認可ヲ與フルコトヲ得

第八十六條　第三條ノ規定ニ依ル耕地整理ノ施行若ハ整理施行地區ノ變更ニ異議アル關係人、第四十三條若ハ第四十四條ノ規定ニ違反シテ耕地整理組合ノ地區ニ編入シタル土地ノ所有者若ハ關係人又ハ第三條第二項但書若ハ第五十四條第一項但書ノ規定ニ依リ異議アル債權者ハ各耕地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可ノ告示、耕地整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示又ハ第三條第四項若ハ第五十四條第二項ノ規定ニ依リ當該事項ノ告示アリタル日ヨリ六十日以內ニ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ訴願アリタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ裁決アル迄目的タル土地ニ付耕地整理ノ施行ヲ停止スルコトヲ得

第八十七條　第四十四條第二項ノ規定ニ依ル補償金ニ付協議調ハサルカ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條ノ二第一項ノ規定ニ依ル補償金ニ付亦前二項ニ同シ

第八十八條　總會議、總會若ハ組合會ノ招集手續若ハ表決カ違法ナル場合ニ於テ之ニ對シ不服アル者又ハ地上權者、永小作權者、賃借權者若ハ豫約開墾者カ整理施行者若ハ組合員ト爲リタル場合ニ於テ第三十條第一項、第二項ノ處分ニ對シ不服アル土地ノ所有者ハ其ノ表決ノ日ヨリ十四日以內ニ地方長官ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項異議ノ申立アリタル場合ニ於テ監督官廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ表決又ハ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第八十九條　監督官廳ノ處分ニシテ本法中他ノ條項ニ於テ地方長官ノ告示ヲ必要トスル事項ニ相當スルモノニ付テハ地方長官ハ之ヲ告示スヘシ

整理施行者ハ前項ノ告示アル迄其ノ受ケタル處分ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ監督官廳ノ命令シタル停止處分ノ解除ニ之ヲ準用ス

第四章　罰則

第九十條　耕地整理施行ニ關シ設ケタル標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條　第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ組合長、組合副長若ハ聯合會會長、聯合會副會長本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ五十圓以下ノ科料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ科料ニ之ヲ準用ス

第九十一條ノ二　組合長、組合副長、聯合會會長、聯合會副會長、臨時代理者、評議員又ハ組合會議員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サヽルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第九十一條ノ三　前條第一項ニ揭クル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附　則

第九十二條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十二年十月勅令第二百三十號ヲ以テ同月十六日ヨリ施行）

明治三十年法律第三十九號ハ之ヲ廢止ス但シ現ニ土地ノ區劃形狀變更ノ許可ヲ得タル者ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第九十三條　北海道ノ耕地ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第九十四條　本法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ付テハ以下數條ニ規定スルモノヲ除クノ外舊法ノ規定ヲ適用ス

第九十五條　本法第一條、第二條、第四條、第八條、第十條、第十七條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十五條乃至第四十條、第七十九條、第八十二條、第八十四條

及第八十五條ノ規定ハ本法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ之ヲ適用ス

第九十六條　本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ得タル者ハ發起人又ハ整理委員ノ申請ニ依リ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法ニ依ル耕地整理組合ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲シタルトキハ耕地整理ニ關スル從前ノ設計書又ハ規約ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ反セサル範圍內ニ於テ本法ノ規定ニ依ル設計書又ハ規約ト看做ス

第一項ノ規定ニ依ル耕地整理組合ハ耕地整理ニ關スル參加土地所有者共同ノ權利義務ヲ承繼ス

第九十七條　本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法第五十條ノ規定ニ依ル耕地整理組合設立ノ申請ト爲スコトヲ得

第九十八條　舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ニ依リ爲シタル處分ニ對スル訴願ニ關シテハ各舊法又ハ明治三十年法律三十九號ノ規定ニ依ル

○大正八年五月法律第四十五號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年五月勅令第二百四十五號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

本法施行前第十四條及第十四條ノ二ノ規定ニ依ル許可アリタル土地ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

耕地整理法施行規則（明治四十二年十月十三日農商務省令第三九號）

改正（明治四十三年四月農商務省令第五號、大正元年八月第二二號、十一月第二二號、四年五月第八號、八年五月第二一號）

第一章　總則

第一條　整理施行者又ハ耕地整理組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ非サレハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者ト爲ルコトヲ得ス但シ耕地整理組合設立ノ認可申請者ニ付テハ地方ノ情況ニ依リ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條　耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ整理施行地區所在ノ市町村ニ事務所ヲ設クヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ之ヲ其ノ隣接市町村ニ設クルコトヲ得

事務所ニハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ備ヘ置クヘシ

共同施行者若ハ組合員タルヘキ者又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閲覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三條　耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者ハ其ノ氏名若ハ名稱、住所、整理施行地區及事務所ヲ整理施行地區ノ屬スル各市町村長ニ屆出ツヘシ

第四條　耕地整理法第七條又ハ第八條ノ規定ニ依ル通知又ハ公告ニハ立入ノ目的、場所及期日ヲ示スヘシ

前項ノ公告ハ立入ルヘキ土地ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ掲示場ニ少ナクモ三日間之ヲ掲示スヘシ

第五條　整理施行地ノ地價ヲ計算スル場合ニ於テ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ非スシテ地租ヲ課セサル土地、耕地整耕理法第十五條第一號、第二號ノ土地及一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ其ノ現況ニ依リ整理施行地區内ノ土地ノ地價ヲ參酌シテ相當ノ假地價ヲ附スヘシ埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル水面ニ付亦同シ

第六條　耕地整理事業カ府縣、郡、市町村其ノ他ノ公共團體ノ事業ニ關スルトキハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請書ニ其ノ團體ノ承認ヲ證スル書面、其ノ承認ヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ設計書、規約又ハ整理施行地區變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　國有地又ハ府縣ノ公用若ハ公共ノ用ニ供スル土地ヲ整理施行地區ニ編入スル爲耕地整理法又ハ本則ノ規定ニ依リ認許ヲ申請スル場合ニ於テハ耕地整理施行、耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可申請ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得

第八條　設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ第五號、第六號、第九號及第十號ノ事項ハ各區毎ニ之ヲ記載スヘシ

一　整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的
二　工事其ノ他ノ事業ノ計畫説明
三　（削除）
四　主要工事ノ仕樣
五　工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定
六　工事施行ニ依リテ得ヘキ利益
七　整理施行地及之ニ隣接スル土地、水面ノ現形圖
八　整理豫定圖
九　工事ノ著手及完了ノ豫定時期
十　維持管理ニ要スルモノヲ除クノ外工事費其ノ他一切ノ費用及夫役現品ノ豫算

第九條　規約ニハ耕地整理法又ハ本則ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　事業ノ範圍
二　（削除）
三　耕地整理組合又ハ聯合會ニ在リテハ名稱
四　事務所ノ所在地
五　耕地整理組合ニ在リテハ組合長、組合副長及評議員、聯合會ニ在リテハ會長及副會長ノ定數、選任、解任及任期ニ關スル規定、共同施行ニ依ル耕地整理ニシテ役員ヲ置クモノニ在リテハ其ノ名稱、定數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
六　會議ニ關スル規定
七　處務及會計ニ關スル規定
八　補償金評定ノ標準ヲ定メタルトキハ其ノ規定
九　費用及夫役現品ノ分賦收入方法竝延滯利息又ハ過怠金ニ關スル規定
十　耕地整理法第三十條第四項ノ告示前ニ於ケル土地使用ニ關スル規定
十一　耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分方法
十二　土地及水面ノ價格評定ノ標準ヲ定メタルトキハ其ノ規定
十三　數人共同シテ施行スル耕地整理ニ在リテハ設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ニ關スル規定
十四　豫約開墾者又ハ埋立若ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ノ權利消滅ノ場合ニ於ケル補償金徵收ノ

方法ヲ定メタルトキハ其ノ規定
十五　維持管理ヲ行フモノニ在リテハ其ノ規定

第十條　耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ工事ニ著手スル前第八條第七號ノ圖面ヲ添附シテ左ノ事項ヲ所轄稅務署長ニ申告スヘシ其ノ變更ヲ生シタルトキ亦同シ
一　整理施行地ノ屬スル郡、市町村竝土地ノ字、番號及水面ノ位置、面積
二　耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可ノ年月日
三　工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定
四　耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地アルトキハ本則第五條ニ依リ定メタル假地價
五　工事ノ著手及完了ノ豫定時期

第十條ノ二　整理施行地區內ニ一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ前條ノ申告ト共ニ分筆ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條　工事ニ著手シ又ハ工事完了シタルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官及所轄稅務署長ニ屆出ツヘシ

第十二條　規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ各區毎ニ前二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條ノ二　耕地整理法第十四條及第十五條第一號但書、第二號ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設

定ヲ要スル土地ニ付テハ整理施行者ハ從前ノ土地ノ字、番號、地目、面積及修正又ハ設定地價ノ見積額ヲ記シタル書面竝從前ノ土地及工事施行後ニ於ケル土地各筆ノ區域ヲ表示シタル圖面ヲ作リ第十一條ノ規定ニ依ル工事完了ノ届出ト共ニ所轄税務署長ニ之ヲ差出スヘシ但シ地價ノ見積ニ付テハ評議員ヲ置ク耕地整理組合ニ在リテハ評議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第十三條　整理施行者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後遲滯ナク換地説明書、整理確定圖及地價配當案ヲ作ルヘシ

前項ノ地價配當案ハ耕地整理組合ニ在リテハ耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲ス總會又ハ總會議ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第十三條ノ二　地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約開墾者カ整理施行者又ハ組合員タル場合ニ於テ一人施行者又ハ共同施行者耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セムトスルトキハ七日前ニ、耕地整理組合同條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲ス總會又ハ總會議ヲ招集セムトスルトキハ同時ニ其ノ旨ヲ土地所有者ニ通知スヘシ

第十四條　耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ換地説明書、整理確定圖及耕地整理組合ニ在リテハ總會又ハ總會議ノ議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十五條　耕地整理法第十五條第一號ノ規定ニ依リ地價ヲ修正又ハ設定シタル場合ニ於テ工事完了前事業ノ廢止又ハ耕地整理組合ノ解散ノ爲工事ノ利益ヲ受クルコト能ハサル土地ニ付テハ廢止又ハ解散ノ時ヨリ地價ノ修正又ハ設定ナカリシモノト看做ス整理施行地區ノ變更ニ依リ地區外ニ除斥セラレタル土地ニ付亦同シ

第十五條ノ二　耕地整理地價据置年期又ハ耕地整理新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後三十日以内ニ所轄税務署長ニ之ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テ整理施行者ハ代リテ其ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日以内ニ所轄税務署長ニ之ヲ申請スヘシ

耕地整理法第十四條ノ二ノ規定ニ依リ民有地ト爲シタル土地ニシテ第一項ノ期間内ニ耕地整理新開免租年期ノ申請ナキトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

第十六條　耕地整理法第三十條第三項ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ地價配當案ニ耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可書ノ謄本、換地説明書及整理確定圖ヲ添附シ所轄税務署長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受クヘシ

第十七條　耕地整理法第十六條ノ規定ニ依ル申告ハ地價ノ配賦ヲ受ケタル後遲滯ナク所轄税務署長ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ共同施行者又ハ耕地整理組合ニ在リテハ協議一致ヲ證スル書面、協議一致セサルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第十七條ノ二　耕地整理法第三十條第四項ノ規定ニ依ル認可ノ通知ハ通知書ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ認可ノ變更又ハ更正アリタル場合亦同シ但シ其ノ添附書類ハ變更又ハ更正アリタル部分ニ關スルモノヲ以テ足ル

一　耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可書ノ謄本
二　整理施行者ノ氏名若ハ名稱、住所ヲ記載シタル書面
三　換地説明書
四　整理確定圖

第十七條ノ三　前條第三號及第四號ノ書類ハ耕地整理地區カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ渉ル場合ニ於テハ各登記所ノ管轄ニ屬スル地域毎ニ分割シタルモノヲ以テ之ニ代フルコトヲ得但シ甲登記所ノ管轄ニ屬スル從前ノ土地ニ對シ乙登記所ノ管轄内ニ於テ換地ヲ交付シタルモノアルトキハ其ノ牽聯スル從前ノ土地及換地ハ換地説明書ノ分割シタルモノニ之ヲ表示スヘシ

第十八條　整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニ付登記ヲ爲シタルトキハ登記權利者ハ遲滯ナク整理施行者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十九條　耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後同條第四項ノ告示前ニ於テ從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限ニ關スル登記ヲ爲シタルモノアルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク同法第三十三條ノ指定ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付既登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アル場合ニ於テ耕地整理法第三十三條ノ指定ヲ爲ササリシモノアルトキ亦前項ニ同シ

耕地整理法第三十條第四項ノ告示前ニ於テ換地ノ一部ニ該當スル從前ノ土地ニ付所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルモノアルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク同法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處

分ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條ノ二　前條ノ規定ハ耕地整理登記令第八條ノ五但書ノ規定ニ依リ耕地整理法第三十條第四項ノ告示後登記ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　共同施行又ハ耕地整理組合ノ事業年度ハ一箇年トス

前項ノ事業年度ハ九月一日ヨリ翌年八月三十一日迄トス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　共同施行者又ハ耕地整理組合若ハ聯合會ハ毎事業年度前經費ノ收支豫算ヲ定ムヘシ但シ初年度ニ於テハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合若ハ聯合會設立ノ認可後遲滯ナク之ヲ爲スヘシ

第二十二條　共同施行者又ハ耕地整理組合若ハ聯合會ハ毎事業年度經過後遲滯ナク當該年度ノ事業報告書及收支決算書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十三條　耕地整理法第三十五條ノ規定ニ依ル公告ハ整理施行地區ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ掲示場ニ三日間送付スヘキ書類ノ要領ヲ掲示スヘシ

第二十四條　耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理ノ事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼ク場合ニ於テ其ノ引繼完了シタルトキハ共同施行者又ハ耕地整理組合長ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十五條　耕地整理事業完了シ若ハ廢止セラレタルトキ又ハ耕地整理組合ノ清算結了シタルトキハ整理施行者又ハ組合長ハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ整理施行地區ノ屬スル市町村長

ニ引渡スヘシ其ノ整理施行地區二以上ノ市町村ニ渉ルトキハ整理施行者又ハ組合長ノ申請ニ依リ地方長官ニ於テ其ノ書類及帳簿ヲ引渡スヘキ市町村長ヲ指定スヘシ

耕地整理法第五十三條第一項第五號ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス

耕地整理組合聯合會ノ清算結了シタルトキハ會長ハ聯合會ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ其ノ所屬組合ノ一ニ引渡スヘシ

第二十六條　市町村長前條第一項ノ規定ニ依リ書類及帳簿ノ引渡ヲ受ケタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ左ニ掲クルモノニ付テハ十年間、其ノ他ノモノニ付テハ五年間之ヲ保存スヘシ

一　耕地整理法又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル認可、認許又ハ同意ヲ證スル書面

二　設計書

三　規約

四　土地原簿

五　權利者名簿又ハ組合員名簿

六　議事錄

七　換地說明書

八　整理確定圖

九　事業報告書

十　收支決算書

前項ノ規定ハ明治四十二年勅令第二百三十一號第三條ノ規定ニ依リ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者カ耕地整理ニ關スル書類及帳簿ノ引繼ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條ノ二　耕地整理法第八十七條ノ規定ニ依ル申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ハサルトキハ其ノ顚末書ヲ、協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ協議ノ相手方ニ交付シ且交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ答辯書ヲ差出スヘキ旨ヲ附記スヘシ

協議ノ相手方前項ノ期間內ニ答辯書ヲ差出サヽルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定スルコトヲ得申請書ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二十七條　本則中府縣、郡、市町村、市町村長、市役所又ハ町村役場トアルハ府縣制、郡制、市町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

第二十七條ノ二　整理施行地區カ數府縣ニ渉ル場合ニ於テハ本則中地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官中主務大臣ノ指定スルモノ之ヲ行フ

第二章　一人施行及共同施行

第二十八條　耕地整理法第三條第一項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　一人ニテ耕地整理ヲ施行セムトスル者ニ在リテハ事業ノ範圍

二　第三十二條第一號乃至第三號ノ事項

三　整理施行者ノ員數

四　整理施行者タル土地所有者、地上權者、永小作權者、賃借權者、豫約開墾者又ハ埋立若ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ノ所有權其ノ他ノ權利ノ目的タル土地又ハ水面ノ權利別、地目別ノ面積及地價若ハ假地價

五　耕地整理法第四十三條ノ土地アルトキハ其ノ表示

六　整理施行地區ヨリ特ニ除斥シタル土地アルトキハ其ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ニ揭クル書面ヲ添附スヘシ

一　耕地整理法第四十三條第一項第一號ノ土地ニシテ地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約開墾者カ其ノ土地ニ付整理施行者タル場合ニ非サル土地、第二號及第三號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付主務官廳又ハ公共團體ノ認許アリタルコトヲ證スル書面

二　耕地整理法第四十三條第一項第四號乃至第八號ノ土地アルトキハ其ノ土地ニ存スル建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面

三　埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル水面アルトキハ其ノ許可ヲ證スル書面

第二十九條　耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ付テハ國ハ之ヲ整理施行者ト看做サス

第三十條　共同施行者ハ耕地整理ノ施行ニ關シ書類又ハ通知ノ授受ノ爲代表者一人ヲ定メ耕地整理施行ノ認可申請ト同時ニ其ノ氏名、住所ヲ地方長官ニ屆出テ且之ヲ公告スヘシ代表者又ハ其ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合亦同シ

第三十一條　耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル整理施行者ハ耕地整理施行ノ認可アリタル後遲滯ナク土地原簿及權利者名簿ヲ調製スヘシ

第三十二條　土地原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　整理施行地ノ總面積及總地價

二　整理施行地ノ筆數、面積及地價ノ地目別合計

三　土地各筆ノ字、番號及地目竝水面ノ位置

四　耕地整理法第四十三條第一項第一號乃至第三號ノ土地、豫約開墾ヲ爲ス土地、工作物アル土地又ハ所有權以外ノ登記シタル權利ノ目的タル土地アルトキハ其ノ表示

第三十三條　權利者名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　整理施行者タル土地所有者、地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約開墾者ノ氏名若ハ名稱、住所竝其ノ所有權其ノ他ノ權利ノ目的タル土地ノ字、番號、地目、面積、地價、等位及權利ノ表示

二　整理施行者タル埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ノ氏名若ハ名稱、住所竝其ノ權利ノ目的タル水面ノ位置及面積

三　土地又ハ水面ノ價格若ハ等位ヲ評定シ、面積ヲ實測シ又ハ假地價ヲ附シタルトキハ其ノ價格、等位、面積又ハ假地價

四　關係人又ハ整理施行地ニ存スル建物ニ付先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ノ氏名若ハ名

稱、住所及登記ノ要領

五　整理施行者タル地上權者、永小作權者又ハ賃借權者ノ權利ノ目的タル土地ノ所有者ノ氏名若ハ名稱、住所及土地ノ表示

六　工作物所有者ノ氏名若ハ名稱、住所及工作物ノ表示

七　耕地整理法第二十五條第二項又ハ第二十五條ノ二第二項ノ訴訟當事者アルトキハ其ノ氏名若ハ名稱、住所及訴訟ノ要領

第三十四條　土地原簿又ハ權利者名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ更正スヘシ

第三十五條　耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載シ之ニ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

事業ヲ廢止シ、債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更シ又ハ整理施行地區ヲ減少セムトスル場合ニ於テ借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

整理施行地區ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除斥セラルヘキ土地又ハ水面ノ整理施行者タルヘキ者又ハ整理施行者タル者ノ同意ヲ證スル書面、其ノ變更カ豫約開墾者又ハ埋立若ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ノ權利ノ消滅ニ依ルモノナルトキハ權利ノ消滅ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ第二十八條ノ規定ハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除斥セラルヘキ土地又ハ水面

ニ付之ヲ準用ス

第三十六條　一人ニテ施行スル耕地整理ヲ變シテ數人共同ノ施行ト爲サムトスルトキハ認可申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ協議一致ヲ證スル書面、規約、數人共同ノ施行ト爲ス爲定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面及第二十八條第一項第三號、第四號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十七條　數人共同シテ施行スル耕地整理ニシテ整理施行者カ一人ト爲リタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十八條　第二十二條ノ規定ハ耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル耕地整理事業完了シ若ハ廢止セラレ又ハ之ヲ郡、市町村若ハ水利組合ニ引繼キタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章　耕地整理組合

第三十九條　耕地整理組合設立ノ認可申請者ハ土地原簿及組合員名簿ヲ調製スヘシ

第四十條　土地原簿ニハ第三十二條ニ揭クル事項ノ外耕地整理法第四十四條第一項ノ土地アルトキハ其ノ表示ヲ爲スヘシ

第四十一條　第三十三條ノ規定ハ組合員名簿ニ之ヲ準用ス

第四十二條　第三十四條ノ規定ハ耕地整理組合ノ土地原簿又ハ組合員名簿ニ之ヲ準用ス

第四十三條　耕地整理法第五十條ノ條件ヲ算定スル場合ニ於テハ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ハ之ヲ算入セス

第四十四條　耕地整理組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一 第二十八條第一項第二號、第五號、第六號ノ事項及第三號、第四號ニ準スル事項

二 耕地整理法第四十四條第一項ノ土地アルトキハ其ノ表示

前項ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添附スヘシ

一 組合員タルヘキ者ニシテ組合設立ニ同意シタル者ノ總數及其ノ土地、水面ノ總面積及總地價竝其ノ同意ヲ證スル書面

二 耕地整理法第四十三條第一項第一號乃至第三號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付主務官廳又ハ公共團體ノ認許又ハ同意アリタルコトヲ證スル書面

三 耕地整理法第四十三條第一項第四號乃至第八號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付土地所有者、關係人及其ノ土地ニ存スル建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ證スル書面

四 特別ノ價値又ハ用途ヲ有スル土地アルトキハ其ノ編入ニ付土地所有者及關係人ノ同意ヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得サルトキハ其ノ價値又ハ用途、土地所有者及關係人ノ氏名若ハ名稱竝同意セサル事由及之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面

五 組合員タルヘキ地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約開墾者アルトキハ土地所有者及賃貸人ノ同意ヲ證スル書面

六 埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル水面アルトキハ其ノ許可ヲ證スル書面

第四十五條 組合設立ノ認可アリタルトキハ申請者ハ遲滯ナク總會ヲ招集スヘシ

前項ノ總會ニ於テハ組合長、組合副長、評議員ヲ置ク組合ニ在リテハ評議員ノ選擧竝組合設立ニ關スル費用其ノ他必要ナル事項ニ付表決ヲ爲スヘシ

第四十六條 組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ノ認可申請書ニハ總會、組合會又ハ評議員會ノ議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

前項選任ノ認可申請書ニハ履歴書ヲ添附シ特別ノ事情ニ依リ組合員ニ非サル者ヲ選任シタル場合ニ於テハ尙其ノ事情ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第四十七條 組合長ノ就任アリタルトキハ組合設立ノ認可申請者ハ遲滯ナク組合ニ關スル一切ノ事務及書類、帳簿ヲ之ニ引繼クヘシ

第四十八條 耕地整理法第四十七條ノ規定ニ依ル代表者アルトキハ組合長ハ其ノ氏名、住所若ハ居所ヲ組合員名簿ニ記載スヘシ

第四十九條 組合會ハ百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

組合會ヲ設ケムトスルトキハ規約中ニ議員ノ定數竝任期及選擧ニ關スル規定ヲ設クヘシ

第五十條 組合會議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ

第五十一條 組合會ニ於テハ第四十五條第二項ノ表決ヲ爲シ又ハ耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第五十二條 組合會議員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

第五十三條 組合會ニ於テ耕地整理法第五十四條第一項又ハ第六十一條第二號若ハ第五號ノ事項ノ

表決ヲ爲スニハ組合會議員總數ノ過半數ノ同意アルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第五十四條　組合會議員ハ組合會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第五十五條　總會又ハ組合會ハ少クモ毎事業年度一回之ヲ開クヘシ

第五十六條　耕地整理法第五十五條第一項ノ總會議ニ於テハ編入區域ノ土地所有者ハ其ノ編入區域ノ土地所有者ニ非サル者ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得ス

第五十七條　代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合設立ノ認可申請者又ハ組合長ニ差出スヘシ

第五十八條　評議員ハ三人以上トス

評議員ハ組合長又ハ組合副長ト相兼ヌルコトヲ得ス

第五十九條　評議員會ハ組合長之ヲ招集ス

評議員總數ノ五分一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ評議員會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組合長ハ七日以内ニ之ヲ招集スヘシ

組合長カ前項ノ招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル評議員ハ第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ其ノ招集ヲ爲スコトヲ得

評議員會ノ議事ハ評議員ノ半數以上出席シ其ノ過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス

第六十條　組合設立ノ認可申請者、組合長、組合副長、評議員及組合會議員ハ規約ニ別段ノ規定アルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第六十條ノ二　組合ハ耕地整理法第七十三條第四項ノ規定ニ依リ指定セラレタル臨時代理者ニ給料及旅費等ヲ支給スヘシ但シ臨時代理者官吏ナルトキハ給料ヲ支給スルコトヲ要セス

第六十一條　總會、總會議、組合會及評議員會ノ議長ハ組合長之ニ當ル但シ第四十五條ノ總會ニ在リテハ認可申請者ノ一人、耕地整理法第五十五條ノ總會議ニ在リテハ編入區域ノ土地所有者ノ一人之ニ當ル

評議員會ノ議事カ業務又ハ財産ノ狀況ノ監査ニ關スルトキハ評議員ノ一人其ノ議長ト爲ル第五十九條第三項ニ依ル評議員會ニ付亦同シ

第六十二條　總會、總會議、組合會又ハ評議員會ノ議長ハ會議ノ議事錄ヲ作リテ左ノ事項ヲ記載シ之ニ議長及出席シタル組合員、編入區域ノ土地所有者、組合會議員又ハ評議員二人以上記名捺印スヘシ

一　開會ノ日時及場所
二　組合員、編入區域ノ土地所有者、組合會議員又ハ評議員ノ現在總數及出席シタル者ノ氏名若ハ名稱
三　議事ノ要領
四　表決シタル事項
五　贊否ノ數

耕地整理法第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要スル表決ヲ爲ス總會又ハ總會議ノ議事錄ニハ前項

ニ記載シタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　組合ノ地區若ハ編入區域内ノ土地ノ所有者總數、總面積及總地價

二　贊成者ノ氏名若ハ名稱及其ノ所有スル土地ノ總面積及總地價

總會又ハ總會議ノ表決ニ付規約ノ規定ニ依リ特別ノ條件ヲ具備スルコトヲ必要トスル場合ニ於テ前二項ニ依ル記載ニシテ其ノ條件ヲ具備シタルコトヲ明カニスルコト能ハサルトキハ之ヲ示スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第六十三條　組合長ハ耕地整理法第五十五條ノ規定ニ依ル總會議ヲ開カムトスルトキハ招集ノ通知ヲ發スル日ヨリ少ナクモ十日前三日間編入區域ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ掲示場ニ編入セムトスル區域及總會議ノ日時、場所及目的ヲ掲示スヘシ

第六十四條　（削除）

第六十五條　耕地整理法第五十四條第一項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ノ事由及之ニ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シ總會、總會議、組合會又ハ評議員會ノ議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

組合ノ解散、合併、地區ノ減少又ハ債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更セムトスル場合ニ於テ組合債アルトキハ債權者ノ同意ヲ證スル書面、組合ヲ解散セムトスル場合ニ於テハ尙事業報告書及收支決算書ヲ添附スヘシ

第四十四條ノ規定ハ第二項第一號ヲ除クノ外地區變更ノ認可申請ノ場合ニ於テ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除斥セラルヘキ土地ニ付之ヲ準用ス但シ其ノ變更カ豫約開墾者又ハ埋立若ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ノ權利ノ消滅ニ依ルモノナルトキハ權利ノ消滅ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

編入區域ノ土地所有者ノ同意ヲ以テ總會議ニ代ヘタル場合ニ於テハ同意シタル土地所有者ノ氏名若ハ名稱及其ノ所有スル土地ノ面積、地價ヲ記載シタル書面竝其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第六十五條ノ二　土地所有者ニ非スシテ組合員タルヘキ者ハ第五十六條、第六十一條、第六十二條及前條ノ適用ニ付テハ之ヲ編入區域ノ土地ノ所有者ト看做ス

第六十六條　組合カ耕地整理法第五十三條第一項第一號、第二號、第七號ノ事由ニ依リ解散シタルトキハ組合長又ハ最終ニ組合員タリシ者ヨリ事業報告書及收支決算書ヲ添附シテ其ノ旨ヲ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

第六十七條　組合カ耕地整理法第五十三條第一項第四號乃至第六號ノ事由ニ依リ解散シタルトキハ遲滯ナク組合長ヨリ事業報告書及收支決算書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第六十八條　組合カ合併シタルトキハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ハ合併後存續シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第六十九條　清算結了シタルトキハ組合長ハ遲滯ナク清算ニ關スル報告書ヲ作リ之ヲ總組合員ニ報告シ且之ヲ添附シテ清算決了ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四章　耕地整理組合聯合會

第六十九條ノ二　耕地整理組合聯合會ヲ設ケムトスルトキハ各組合連署ヲ以テ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ各組合ノ聯合會設立ニ關スル議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第六十九條ノ三　第四十六條、第四十七條、第六十條、第六十條ノ二、第六十五條第一項、第二項及第六十六條乃至第六十九條ノ規定ハ耕地整理組合聯合會ニ之ヲ準用ス

附　則

第七十條　本則ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年農商務省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

第七十一條　耕地整理法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タルモノニ付テハ本則第四條、第十條、第十一條、第十二條ノ二、第十七條ノ二、第十七條ノ三、第十九條乃至第二十三條、第二十七條及第三十八條ノ規定ヲ準用スルノ外舊則ノ規定ヲ適用ス但シ舊則第三十一條中農商務大臣トアルハ地方長官トス

第七十二條　耕地整理法施行前耕地整理ノ發起ノ認可ヲ得タル者ヲ耕地整理組合ト爲サムトスルトキハ發起人又ハ整理委員ハ總會ヲ招集シテ本則第八條第五號、第十號及第九條第一號乃至第五號、第九號、第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規約ノ變更ヲ議決シ竝組合長、組合副長、評議員ヲ置クモノニ在リテハ評議員ヲ選擧シ總會ノ議事錄ヲ添附シテ大正二年十月十五日迄ニ耕地整理組合ト爲スノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

前項ノ總會ニハ耕地整理法及本則ノ規定ヲ適用ス

耕地整理法第七十三條第三項ノ認可申請ハ第一項ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ本則第四十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七十三條　前條ノ場合ニ於テ百人以上ノ參加土地所有者アルトキハ發起人又ハ整理委員ハ總代選擧規程ヲ作リテ地方長官ノ認可ヲ得タル後其ノ選擧規程ニ依リ選擧シタル總代ヲ以テ組織スル總代會ヲ招集シ總會ニ代フルコトヲ得

前項ノ總代會ニハ耕地整理法第六十六條、第六十八條第一項竝本則第五十二條、第五十三條及第六十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七十四條　前二條ノ總會又ハ總代會ニ在リテハ第七十二條ニ記載シタル事項ノ外必要ナル事項ヲ表決スルコトヲ得

第七十五條　耕地整理法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサルモノニシテ耕地整理組合設立ノ申請ト爲サムトスルトキハ發起人ハ參加土地所有者ノ總會ヲ招集シ本則第八條第五號、第十號及第九條第一號乃至第五號、第九號、第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規約ノ變更ヲ議決シ總會議ノ議事錄ヲ添附シ明治四十三年四月十五日迄ニ耕地整理組合設立ノ申請ト爲ス旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第七十二條第二項及第七十三條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條　第七十二條第一項ノ認可申請又ハ前條ノ屆出ヲ爲ス場合ニ於テ耕地整理法第四十三條又ハ第四十四條第一項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要スルモノニ付テハ本則第七條及第四十四

條ノ規定ヲ準用ス

○大正四年農商務省令第八號附則

本令ハ大正三年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正四年六月一日ヨリ施行）

本令施行前耕地整理法第三十條第三項又ハ舊耕地整理法第四十八條ノ認可アリタル者ニシテ未タ耕地整理法第三十六條ノ登記ノ申請ヲ爲サヽルモノニ付テハ地方長官ハ第十七條ノ二及第十七條ノ三ニ準シテ管轄登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

○大正八年農商務省令第二十一號附則

本令ハ大正八年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正八年六月一日ヨリ施行）

開墾助成法（大正八年四月五日法律第四二號）改正（昭和四年三月法律第三號）

第一條　土地ノ農業上ノ利用ヲ增進スル目的ヲ以テ左ニ揭クル事業ヲ行フ者ニ對シ主務大臣ハ助成金ヲ交付スルコトヲ得

一　開墾、湖海ノ埋立若ハ干拓又ハ開田

二　前號ニ揭クル事業ニ伴フ灌漑排水ニ關スル施設又ハ道路堤塘ノ新設若ハ變更

第二條　助成金ノ額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ爲支出シタル金額ノ十分ノ四以內トス

第三條　主務大臣ハ助成金ノ交付ヲ受クル者ニ對シ助成金交付ノ土地、事業又ハ事業ニ依リテ生シタル設備ニ關シ報告ヲ命シ、當該官吏若ハ吏員ヲシテ書類會計物件若ハ工事ヲ檢査セシメ又ハ監督上必要ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ハ助成金ノ交付ヲ受クル者ニ對シ助成金ノ交付ヲ停止シ若ハ廢止シ又ハ助成金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命スルコトヲ得

一　本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

二　事業ノ全部又ハ一部ノ停止又ハ廢止アリタルトキ

三　助成金交付ノ土地又ハ事業ニ依リテ生シタル設備ヲ農業上ニ利用セサルニ至リタルトキ

四　助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
五　詐欺ノ手段ヲ以テ助成金ノ交付ヲ受ケタルトキ

第五條　私人ノ助成金償還ニ付テハ國税滞納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國税ニ次クモノトス

第六條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年五月勅令第二百四十六號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

本法ハ北海道ニ之ヲ施行セス

附　則（昭和四年法律第三號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年三年勅令第二十七號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

本法施行前助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日以後ニ於テ施行スル事業ニ對シ從前ノ例ニ依ル助成金ノ交付ヲ廢止シ本法ニ依ル助成金ヲ交付スルコ

トヲ得

開墾助成法施行規則

（大正八年五月二十七日農商務省令第二二號）

改正（大正十一年三月二十九日農商務省令第六號　昭和四年四月農林省令第八號）

第一條　助成金ヲ交付スヘキ事業ハ開墾助成法第一條第一號ノ事業ニ在リテハ其ノ施行面積五町歩以上ノモノ、同法第一條第二號ノ事業ニ在リテハ同法第一條第一號ノ事業ニシテ施行面積五町歩以上ノモノニ伴フモノニ限ル

第二條　助成金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ様式第一號ニ依ル願書ニ左ニ掲クル書面ヲ添付シ農林大臣ニ差出スヘシ

一　様式第二號ニ依ル設計書
二　事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ事業年度ヲ記載シタル書面
三　各年度又ハ各年ノ收支計算見込書
四　助成金交付ノ事業ニ付認可、許可、議決又ハ同意ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ證スル書面
五　數人共同シテ事業ヲ行フ場合ニ在リテハ事業施行ニ關スル契約書ノ謄本
六　定款、寄附行爲又ハ規約

數人共同シテ事業ヲ行フ場合ニ在リテハ代表者ヲ定メ其ノ正當ナルコトヲ證スル書面ヲ前項ノ願書ト共ニ差出スヘシ

第三條　農林大臣前條ノ願書ヲ受理シ審査ノ上助成金ヲ交付スヘキモノト認メタルトキハ助成金交付ノ條件ヲ定メ指令書ヲ交付ス

第四條　助成金ノ交付ヲ受クル者第二條第一號乃至第三號ノ事項又ハ第五號ノ契約及第六號ノ定款、寄附行爲若ハ規約中事業施行ニ關係アル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ其ノ變更ニ付認可、許可、議決又ハ同意ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前二項ノ規定ハ助成金ヲ受クル事業ノ停止、廢止又ハ法人ノ解散ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　助成金ヲ請求セムトスル者ハ事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ其ノ事業年度終了後二月內ニ、其ノ他ノモノニ在リテハ毎年二月末日迄ニ前年度又ハ前年ノ事業成績書及收支決算書ヲ添ヘ農林大臣ニ請求書ヲ差出スヘシ

第六條　（削除）

第七條　開墾助成法第二條ノ規定ニ依ル金額ハ第五條ノ收支決算書ニ基キ事業ノ爲支出シタル一切ノ金額中ヨリ素地ノ買入代金及借入金ノ利息ヲ控除シタルモノニ付農林大臣之ヲ査定ス

第八條　助成金ノ額ハ前條ノ規定ニ依リ決定シタル金額ノ十分ノ四トシ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外毎年之ヲ交付ス

第九條　助成金交付ノ事業ヲ讓渡セムトスルトキハ樣式第三號ニ依ル願書ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ相續又ハ法人ノ合併ニ依リ助成金交付ノ事業ヲ承繼シタルモノカ引續キ助成金ノ交付ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ承繼人タルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十條　助成金ノ交付ヲ受クル者工事ヲ開始シ又ハ終了シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨農林大臣ニ届出ツヘシ

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ助成金ノ交付ヲ受クル者ハ遲滯ナク其ノ旨農林大臣ニ届出ツヘシ

一　氏名又ハ名稱ノ變更
二　住所又ハ事務所ノ變更
三　第二條第二項ノ代表者ノ變更
四　死亡又ハ行衞不明
五　解散又ハ破産

前項第四號ノ場合ニ於テハ戸主又ハ家族、第五號ノ場合ニ於テハ清算人又ハ破産管財人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條　助成金ノ交付ヲ受クル者ハ事業施行上便宜ノ場所ニ事務所ヲ設ケ事業ノ狀況、費用ノ收支其ノ他事業ニ關スル事項ヲ明ニスヘキ書類及帳簿ヲ備フヘシ

第十三條　開墾助成法又ハ本則ニ依リ農林大臣ニ差出スヘキ書類ハ事業施行地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

第十四條　開墾助成法第三條ノ規定ニ依ル農林大臣ノ職權ハ事業施行地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ委任ス但シ必要アルトキハ農林大臣ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

第十五條　事業施行地カ數府縣ニ渉ル場合ニ於テハ農林大臣ハ第十三條及第十四條ノ地方長官ヲ關係地方長官中ヨリ指定スルコトアルヘシ

附　則

本則ハ開墾助成法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正八年六月一日ヨリ施行）

開墾助成法施行前開始シタル事業ニ付テハ開墾助成法施行ノ日以後ニ於テ施行スル事業ニ對シ助成金ヲ交付スルコトアルヘシ但シ大正八年十一月末日迄ニ出願シタルモノニ限ル

附　則（大正十一年農林省令第六號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ開墾助成法施行規則第七條ニ依ル總金額ノ決定ニ關シ大正十年度迄分ノ府縣ノ補助金ニ相當スル金額ノ控除ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和四年農林省令第八號）

本令ハ昭和四年法律第三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和四年四月一日ヨリ施行）

本令施行前助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和四年法律第三號附則第二項但書ノ規定ニ依リ助成金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ昭和四年十二月三十一日迄ニ申請書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

前項ノ助成金ハ事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ本令施行後ニ始マル事業年度以後ノ事業ニ付、其ノ他ノモノニ在リテハ昭和五年一月一日以後ノ事業ニ付之ヲ交付ス此ノ場合ニ於テハ從前ノ例ニ依ル助成金ノ交付ニ付テハ其ノ前年度ノ末日又ハ昭和四年十二月三十一日ニ工事ヲ終了シタルモノト看做ス

農林大臣第三項ノ申請書ヲ受理シ審査ノ上適當ト認メタルトキハ條件ヲ定メ指令書ヲ交付ス

（樣式）

第一號

開墾助成願（正副二通）

別紙設計書記載ノ事業ヲ施行致度候ニ付助成相成度開墾助成法令ニ依リ此段相願候也

年　月　日

事務所

住所職業　氏　名㊞

生年月

農林大臣　殿

第二號

設計書（正副二通）

一　事業施行地ノ現況及事業ノ目的
二　事業ノ計畫説明
三　主要工事ノ仕樣
四　工事施行前後ノ土地ノ地目別合計
五　事業施行ニ依リテ得ヘキ利益
六　事業施行地及之ニ隣接スル土地、水面ノ現形圖
七　豫定圖
八　工事ノ開始及終了ノ豫定時期
九　工事ノ年度割豫定
十　事業ニ要スル費用豫算並明細書

備考　開墾助成法第一條第一號又ハ第二號ノ事業ノミヲ行フ場合ニ在リテハ同條第二號又ハ第一號ノ事業トノ關係ヲ説明スヘシ

第三號

開墾助成金交付ノ事業讓渡認可願（正副二通）

何々ノ事由ニ因リ（別紙添附書類ノ區分ニ從ヒ）何年何月何日指令第何號ニ依ル助成金交付ノ事業讓渡致度御認可ノ上ハ（讓渡ノ區分ニ從ヒ）開墾助成法令ニ依ル讓渡人ノ權利義務ノ一切ハ讓受人ニ於テ之ヲ承繼可致候ニ付御認可相成度此段相願候也

年　月　日

事務所
住所職業
讓渡人　氏　名㊞

事務所
住所職業
讓受人　氏　名㊞
生年月

農林大臣　殿

內務省官制（抄出）（明治三十一年十月二十二日勅令第二五九號）

改正（前二十七回略大正十一年十一月勅令第四六三號、十二年五月同第一九八號、十三年八月同第一七八號、十二月同第三一六號、十四年四月同第一四〇號、十五年五月同第九〇號、昭和三年七月同第一三四號、四年三月同第一〇號）

第七條　土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
二　府縣經營ノ土木工事其ノ他公共ノ土木工事ニ關スル事項
三　直轄工費及土木工費補助ニ關スル事項
四　軌道ノ特許及監督ニ關スル事項
五　河川、道路、港灣及砂防ニ關スル事項
六　公有ノ水面及水流ニ關スル事項
七　土地收用ニ關スル事項

第十二條ノ二　內務大臣ハ必要ニ應シ土木出張所又ハ土木試驗所ヲ置キ直轄土木工事竝河川、道路、港灣及砂防ノ調査試驗等ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

土木出張所又ハ土木試驗所ニ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

第十三條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

內務省分課規程（抄出）（大正十三年十二月二十二日官報）

改正（昭和三年七月五日、十二月四日官報）

土木局

河　川　課

一　河川ニ關スル事項
一　砂防ニ關スル事項
一　水利ニ關スル事項
一　湖沼ノ埋築干拓及使用ニ關スル事項

一　本省直轄河川砂防工事用船舶及重要機械器具ノ運用ニ關スル事項
一　災害土木工事國庫補助ニ關スル事項
一　土木統計及直轄工事年報ノ編纂ニ關スル事項
一　他課ノ主管ニ屬セサル事項

道路課

一　道路ニ關スル事項
一　軌道ニ關スル事項
一　上水道下水道ノ工事及其ノ補助ニ關スル事項
一　土地收用ニ關スル事項
一　本省直轄道路工事用船舶及重要機械器具ノ運用ニ關スル事項

港灣課

一　港灣ニ關スル事項
一　運河ニ關スル事項（主トシテ河川ニ關スルモノヲ除ク）
一　海面ノ埋築干拓及使用ニ關スル事項

一　本省直轄港灣工事用船舶及重要機械器具ノ運用ニ關スル事項

第一技術課

一　河川道路港灣其ノ他ノ技術ニ關スル事項

第二技術課

一　重要ナル技術上ノ調査ニ關スル事項
一　本省直轄土木工事ノ企畫ニ關スル事項

内務省土木出張所名稱及分掌區域

（大正十三年十二月十三日内務省告示第七八二號）

改正（昭和二年三月十五日内務省告示第二八六號、三年五月十一日同第一三〇號）

内務省土木出張所名稱及分掌區域大正十三年十二月十五日ヨリ左ノ通改正ス

内務省官制第十二條ノ二ニ依リ東京、横濱、仙臺、新潟、名古屋、大阪、

神戸、下關ニ內務省土木出張所ヲ置ク其ノ名稱及分掌區域左ノ如シ

名稱	區域
內務省東京土木出張所	東京府、神奈川縣（橫濱港ヲ除ク）、靜岡縣ノ內酒匂川富士川流域、長野縣ノ內富士川流域、山梨縣、埼玉縣、群馬縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、福島縣ノ內久慈川那珂川流域
內務省橫濱土木出張所	橫濱港、靜岡縣（酒匂川富士川大井川流域及遠江國一圓ヲ除ク）
內務省仙臺土木出張所	宮城縣、福島縣（久慈川那珂川流域ヲ除ク）、岩手縣、青森縣、秋田縣
內務省新潟土木出張所	新潟縣、長野縣（富士川天龍川木曾川流域ヲ除ク）、山形縣、石川縣、富山縣、岐阜縣ノ內庄川神通川流域
內務省名古屋土木出張所	愛知縣、靜岡縣ノ內遠江國一圓及大井川流域、長野縣ノ內天龍川木曾川流域、岐阜縣（庄川神通川流域ヲ除ク）、滋賀縣ノ內木曾川流域、三重縣（木津川新宮川流域ヲ除ク）、福井縣
內務省大阪土木出張所	大阪府、京都府、滋賀縣（木曾川流域ヲ除ク）、三重縣ノ內木津川新宮川流域、奈良縣、和歌山縣、兵庫縣（神戸港ヲ除ク）、鳥取縣、島根縣、岡山縣、廣島縣
內務省神戸土木出張所	神戸港、德島縣、高知縣、香川縣、愛媛縣
內務省下關土木出張所	山口縣、長崎縣、福岡縣、大分縣、佐賀縣、熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣

內務省土木試驗所設置ノ件

（大正十一年九月三十日內務省告示第二五五號）

內務省官制第十二條ノ二ニ依リ東京ニ內務省土木試驗所ヲ置ク

內務省土木出張所處務規程

（昭和二年四月二十一日內務省訓令第一〇號）

第一條　所長ハ雇員以下ノ命免ヲ專行スルコトヲ得

第二條　所長ハ分掌區內ニ出張スルコトヲ得

第三條　所長ハ所員ニ分掌區內又ハ分掌區外ノ出張ヲ命スルコトヲ得

所長ハ所員ノ賜暇、賜暇旅行又ハ轉地療養ヲ許可スルコトヲ得

所長ハ所員ノ除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第四條　所長ハ別ニ定ムルモノノ外左記ノ事項ニ付稟伺スヘシ

一　直轄工事既定計畫ノ變更

二　治水事業費河川費中各目ノ流用

三　訴訟ノ提起、取下、和解又ハ訴權ノ拋棄

四　謝金參千圓以上ノ辯護士ノ雇入
五　金額參千圓以上ノ慰藉料ノ支給
六　年額貳千圓以上ノ手當ヲ要スル事務ノ囑託
七　其ノ他重要ト認ムル事項

第五條　所長ハ直轄工事施行ノ爲必要ナル土地取得ニ關スル取扱ヲ爲スヘシ

第六條　所長ハ要塞地帶法ニ依リ要塞司令官ニ對シ爲スヘキ事項ヲ取扱フヘシ

第七條　所長ハ船舶法、船舶檢査法ニ依リ管海官廳ニ對シ爲スヘキ事項ヲ取扱フヘシ

第八條　所長ハ直轄工事用電話其ノ他電氣工作物施設ニ關シ所管官廳ニ對シ爲スヘキ事項ヲ取扱フヘシ

第九條　所長ハ所中處務細則ヲ設クルコトヲ得

第十條　所長ハ別ニ定ムルモノノ外左記ノ事項ニ付即報スヘシ

一　處務細則竝其ノ改廢
二　高等官ノ事務分掌
三　直轄工事ノ調査、計畫又ハ工事ノ終了
四　災害ニ因ル直轄工事ノ損壞
五　重要物件ノ貸借
六　寄附物件ノ受領
七　謝金參千圓未滿ノ辯護士ノ雇入
八　金額參千圓未滿ノ慰藉料ノ支給
九　年額貳千圓未滿ノ手當ヲ要スル事務ノ囑託
十　其ノ他必要ト認ムル事項

第十一條　所長ハ前年度中ニ施行シタル直轄工事ノ調査、計畫又ハ工事ノ狀況ヲ八月末日迄ニ報告スヘシ

第十二條　所長ハ直轄工事ノ調査、計畫又ハ工事終了シタルトキハ速ニ報告書ヲ調製シ之ヲ進達スヘシ

第十三條　所長ハ前年中ノ水位表ヲ二月末日迄ニ進達スヘシ

第十四條　所長ハ土木出張所ヲ經由スル申請書ヲ受領シタルトキハ之ニ意見ヲ附シ進達スヘシ

第十五條　稟伺、報告又ハ進達ノ場合ニ於テ會計ニ關スルモノハ大臣官房會計課長ニ、其ノ他ハ土木局長ニ送致スヘシ

內務省土木試驗所事務ニ關スル件（大正十一年九月三十日內務省訓令第一七號）

當分ノ內道路材料ノ試驗調查及道路ノ築造維持ノ試驗調查ニ關スル事務ニ限リ取扱フヘシ

土木出張所ノ處務竝會計ニ關スル規定ハ本所事務ノ取扱ニ付之ヲ準用ス

同件（大正十四年十二月十七日內務省訓令第一八號）

大正十五年度ヨリ治水港灣ニ關スル土木試驗ヲ開始スヘシ

昭和四年六月廿二日印刷
昭和四年六月廿五日發行

（定價金壹圓）

編纂者　內務省土木局

發行者　東京府豐多摩郡落合町下落合二四七番地
港灣協會代表者　大瀧幹正

印刷者　東京市神田區美土代町二ノ一
島連太郎

印刷所　東京市神田區美土代町二ノ一
三秀舍

發行所　東京市麹町區大手町一丁目六番地
港灣協會
電話丸ノ內一九一七
振替口座東京六三一〇五番

14
44

14.7
446

内務省土木局編